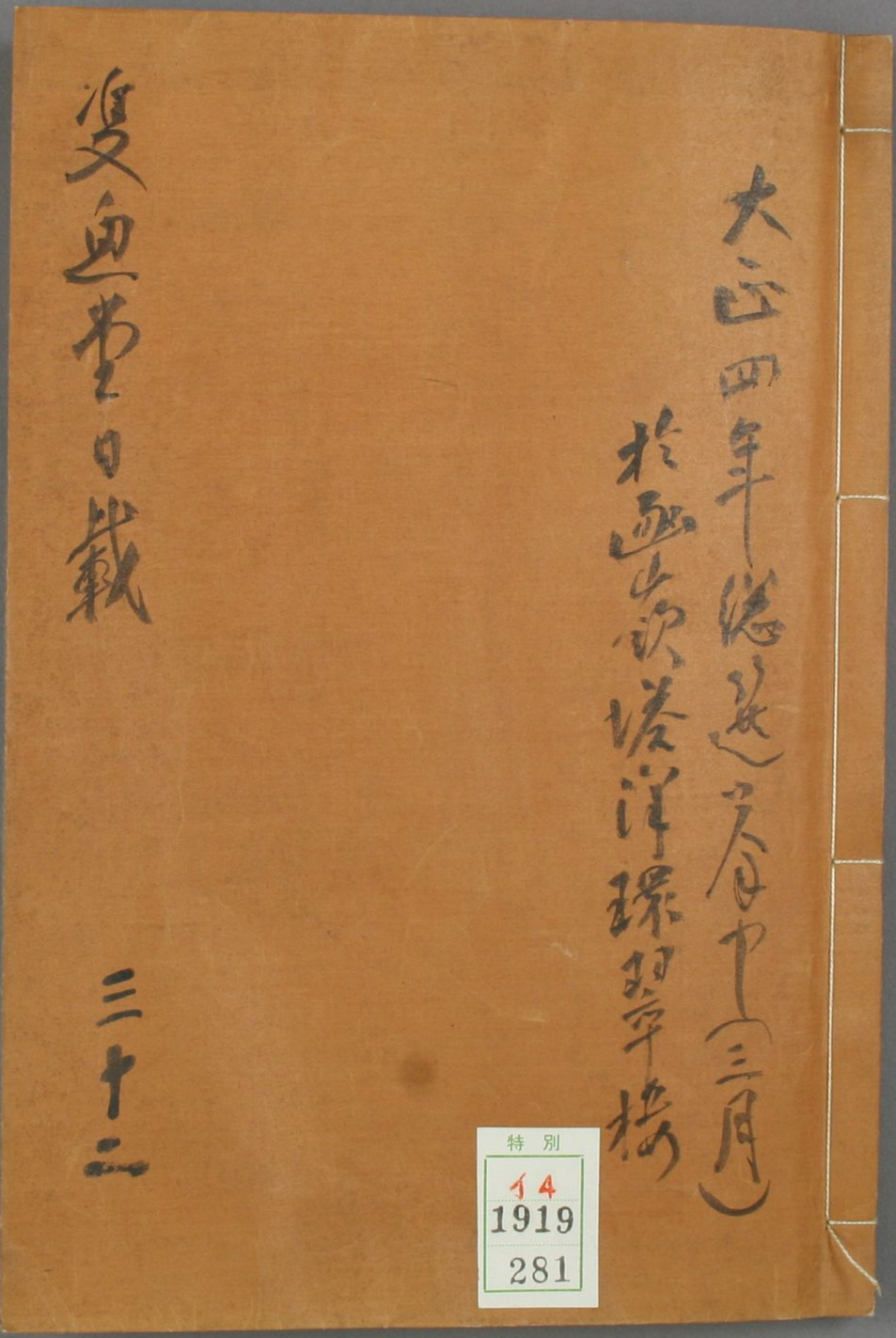


大正四年總選舉中（三月）
於函山欽塔洋環翠樓

雙魚堂日載

三十二

特別
イ4
1919
281

176556

雙恵堂日載

大正四年三月

一月以来心身を分し此絲遊庵に漸く涵
みがツナリと度んにかうダを以て根山中へ
運び濃深なる所行を少き堂々の浴し
てゐんが政抵七漸く冷やさん鄭慶も
浴らひ去らんに抜な名来りして何とも
爽快を覚ゆる新る折りは一ヶ月餘を
あり別に好けられて日載の事を停
めに日載を書きづくんと思ひ立ちボ
ツ思ひ出るまゝを書きつく但し僅

地に温泉出天邊初
雪来春寒安家
家生是酒成婦
丁未一月
春畝山人

此日載を画巌言浦生中に成る

38- 9077

う二三日の間にすべてを書き終らんは
覚束なし寧ろ詳にして曰經まらぬ
ようとも聞きして終りを告ぐる方と
走り書きは必要のみの直つを載しなる
ことのみを書きに付く

大正四年三月廿八日 翠根塔に於て
環の手掛上に於て

○大隈伯入閣の際に早く重要の事を代しに解
散の結果如何ならんとなれば伯
の異常に成功に於て比較的の数なり此の如
数量を率ひて内客に入ると云ふことにの也今日

大隈伯一代に成功と絶對多数を利する政
友会と衝突を生ずれば解散到底免る一の
ことに而して解散の結果なる総選挙は早
晩来らざるを得ず、総選挙は果して伯内
客に利あるべきやこんな等の究初
よりも甚だしなる事なり
伯は久しく民皆に立つて四民に接觸し四民
に立憲思想を鼓吹すると共に伯自身も
立憲的政治家なる修養を積まんとす
其の一代報に立つや多数堂を議会に敵
とも取ける事とて、すべての施措憲政に
悖らざることをこんつとるん敵に寸隙も窺

ぬまじと用心しつゝこれ迄の総理大臣は我人と
例すきも勤勉を以て政務にあり明治年
間に撰積する政契を廓清するは大膽な
る行動を敢てし以つて人心を新にせんことを
力めこんなり
○蓋し欧洲の大禍乱勃発することなくんば
伯内閣の施措も或許進捗し其結果国民
の謳歌を買ひ得一のこうしなんが爰に
意外の大戦乱起り日本も其の渦中に投
し獨国を敵として戦いさるを得さるに至り
なるを以つて内治の施措は一切挫を生じ出
り

○而して伯内答は此間に於て極めて備へ有り
に於て或許廓清の実を挙げ恐的激烈を
三分まで つまらぬ三分ともいふ切ぬけ
獨国の東洋に於ける望慕を溜れ国民
を高むるの功を建てなり
○青島を溜れなりと雖も欧洲の大乱は未
以数まらず我邦に於ても宣戦の勅書は
者存して日本何的戦争を再始するや
国こんさる場合に在り全体なれば挙国一致
を要する時也況んや青島溜落の善後に
つき支那と外交を開らき日露戦役の後
時の政府が支那に対し満足に収め得ざ

りし放果を此場合ニ政府諸氏の干渉
ニ腹あらざる此場合ニ乗し一着獲得せ
んとする國家重大の時機ニ於ては挙國一
段を変する勿論の事なり
○新る場合ニ方り議会ニ多数を占むる政
友会は政権争奪を事も忘るゝ能ハ
雖会政府と衝突するに相当の理由を有せずと
するも多数の数を以て強くて衝突し議会の
解散を招き総選挙の結果再び多数を
占めて取つて政府に代ハるべしとなり
○初めより最低限ニ多数の量を有せざる大限内
閣に於ても議会解散の結果ニ望を属し

政友会争ハば直ちに解散すべしと言を決
し居る中にも大限内にも解散ニ熱中し
時ニ進むに義を挑むの態度を取るを閣
僚は不可とし之れを抑制するにつとめたり
○百名解散を欲す解散終ニ来らざる
を得ず而して解散を為すの事理由は政
府に於て充分すべし而して解散を誘致
する政友会の抗争ニ於て或人と理由ある
なし曰く二個師団増設を一年延期すべし
と重なる理由はこれにあるべきも政友会とても
理由の薄弱なるを感じるものあらず彼等
は初め理由を外交失敗と云ふに求めんと

しとう而ゝも終に理由を之れに藉る能はせらるし
原因政友会総裁は頗る苦悶しとう従来提
携し居る場合に腹を折ることを言ひとせき
る原は内心腹を折らんとしとうも薩派に通
する奥田床次の如き領袖は硬論を唱へ
終に原日の腹を折るを妨けこゝに理由を
もちゝさに唯此多数を頼むて政府と衝
突し政府は之らこそと解散を断行し
とう
○解散の後政友会は思へらく必ずや再
び多数を占めん解散戦の事して堂勢
の衰運を招致せんとしとう寧ろ戦ひて堂

勢を維持せし所つて政府に代はらんとすると彼
等は又思へらく政友会今の多年政権に近う
つき地方に扶植し居る地盤は北華国なるも
戦ひの理由之しくとも亦在野堂の不利は
あらとも勝利は必然なりと
○彼等の斯く信ずるも道理なきにあらず
実は日本の政治界殊に地方の選挙は
未幼稚にして政略の是非によりも不
し左右せらるゝまでに進みたるに、殊に政
友会は選挙運動に就て個特の手腕
を有す之れに比しては同志会は政堂と
して未嘉なり中正会は尚更の事なるも

彼等の必勝を訪しとする強ち謂いんなきに
あらず
○アル等の解散の若後に若宣しとなる
なるべく前述の点に於て同志会の評判の
ならずとも当政府の評判のあるべきと同一般
にして地方の地盤を政府の筆きと同
日に論ず可らず大隈伯もかゝる選
者をうけたる今も然ず地方選
者界の実況の内情のぬき一伯一男の頭脳
に理解さるべきのあらず伯を解散を行
ふをあり解散後を矢鱈に乗ひ
りと雲も心あるこのく氣遣へるを全く

総選者の結果如何に在りとす
○アル等大隈伯に縁所深きものが伯の入閣と
共に大隈伯後援会を設けたるも一を伯の自
家の政堂を建てたるにすぎ伯を援けんと志
ざるも伯んと実を大目的を総選者を
籠訪し之れに及ぶ限りの援助を為さんと
訪しなること勿論なり
○如訪して総選者を終る三月廿五日と定
まり遂廉戦を早く此年臘尾より要起
さんとす而して結果を政府の大々的勝利に
帰しアル等の籠想しなるも遂に政府
堂多数を占め政友会をアル等の籠

期せしも去りし不結果を生じたる而して國民
中に於ては二十以下まで低落を稀約をし
たるに却って結果として二十七名以上の数
を保つことを得たるは解散前の数よりも
数名減じたるも選挙の結果に就て
大勢力を見るに、左表の如くなる全数なるやと

各派勢力比較表

	同志會(選擧前)	同志會(今選擧)	後援會(選擧前)	後援會(今選擧)	中正會(選擧前)	中正會(今選擧)	政友會(選擧前)	政友會(今選擧)	國民黨(選擧前)	國民黨(今選擧)	無所屬(選擧前)	無所屬(今選擧)	計(定員)
東京府	三	五	〇	二	二	〇	五	四	四	四	二	一	一六
京都府	三	三	〇	〇	〇	三	三	一	〇	一	二	〇	八
大阪府	二	五	〇	二	四	二	三	二	〇	〇	四	二	一三
神奈川縣	四	五	〇	一	〇	〇	四	二	〇	〇	〇	〇	八
兵庫縣	六	五	〇	三	一	〇	二	二	三	三	二	一	一四
長崎縣	二	三	〇	〇	一	一	五	二	〇	〇	〇	二	八
新潟縣	五	五	〇	一	一	一	七	六	〇	〇	〇	一	一四
埼玉縣	四	五	〇	〇	〇	〇	五	四	〇	〇	〇	〇	九
群馬縣	二	三	〇	二	〇	〇	四	二	〇	〇	二	一	八
千葉縣	二	四	〇	一	一	一	三	三	一	一	三	〇	一〇
茨城縣	一	七	〇	〇	〇	〇	五	二	一	一	三	〇	一〇
栃木縣	一	二	〇	一	一	一	四	三	一	〇	〇	〇	七
奈良縣	〇	三	〇	〇	〇	〇	二	一	二	一	一	〇	五
三重縣	二	二	〇	一	二	四	四	〇	一	一	〇	一	九
愛知縣	四	六	〇	一	二	二	六	四	一	〇	〇	〇	一三
靜岡縣	一	二	〇	二	一	二	六	二	二	一	〇	一	一〇
山梨縣	二	三	〇	一	〇	〇	二	一	〇	〇	一	〇	五
滋賀縣	〇	一	〇	一	一	一	二	一	三	二	〇	〇	六
岐阜縣	二	四	〇	一	三	一	三	一	〇	〇	〇	一	八
長野縣	一	四	〇	〇	二	一	七	五	〇	〇	〇	〇	一〇
宮城縣	二	五	〇	一	〇	〇	五	一	〇	〇	〇	〇	七
福島縣	四	六	〇	〇	〇	〇	五	三	〇	〇	〇	〇	九
岩手縣	二	二	〇	〇	〇	〇	四	四	〇	〇	〇	〇	六
青森縣	二	一	〇	〇	一	一	三	三	〇	〇	〇	一	六
山形縣	一	三	〇	〇	〇	〇	六	三	一	一	〇	一	八
秋田縣	四	五	〇	〇	〇	〇	三	一	〇	一	〇	〇	七
福井縣	〇	一	〇	一	一	一	三	二	一	〇	〇	〇	五
石川縣	一	三	〇	二	〇	〇	五	一	〇	〇	〇	〇	六
富山縣	二	四	〇	〇	一	〇	四	三	〇	〇	〇	〇	七
鳥取縣	一	三	〇	〇	〇	〇	三	一	〇	〇	〇	〇	四
島根縣	三	六	〇	〇	〇	〇	四	〇	〇	〇	〇	一	七
岡山縣	〇	一	〇	〇	〇	〇	二	〇	七	七	〇	一	九
廣島縣	二	一	〇	〇	四	七	五	二	〇	〇	一	二	一二
山口縣	二	六	〇	〇	〇	〇	五	〇	〇	一	一	一	八
和歌山縣	一	〇	〇	〇	一	一	四	二	〇	二	〇	一	六
德島縣	一	〇	〇	一	一	〇	四	二	〇	〇	〇	三	六
香川縣	一	〇	〇	一	二	一	一	二	〇	〇	三	三	七
愛媛縣	二		〇		二	一	二		一		一		八
高知縣	三	四	〇	〇	〇	〇	三	二	〇	〇	〇	〇	六
福岡縣	一	三	〇	〇	〇	一	九	七	三	〇	一	三	一四
大分縣	三	四	〇	〇	〇	〇	三	二	〇	〇	〇	〇	六
佐賀縣	三	四	〇	〇	〇	〇	一	二	〇	〇	二	〇	六
熊本縣	六	六	〇	〇	〇	〇	三	三	〇	〇	〇	〇	九
宮崎縣	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一	一	〇	〇	三	三	四
鹿兒島縣	〇	〇	〇	〇	〇	〇	九	八	〇	〇	〇	〇	九
沖繩縣	〇		〇		〇		二		〇		〇		二
北海道	一	二	〇	一	一	一	三	一	〇	〇	一	〇	六
合計	九五	一四七	〇	二七	三六	三四	一八四	一〇四	三三	二七	三四	三二	三八一
比較增減	增五二		增二七		減二		減八〇		減五		減二		

▲備考 本表の黨派區別は内務省調査に根據とし未だ開票を終らざる愛媛縣郡部七名、沖繩縣二名、大島一名、北海道根室釧路郡一名は定員數を除外したるを以て議員定員と符合せず(新潟縣は選擧前一名缺)

東京榛原製

尚も大勢は國民の失したるにあらずや
○政友會は憎むべき多数を失ひたるのみならず多
く知名の人をも失ひたり是れ大岡、奥繁、竹
越、横田、伊藤(大八)鵜澤(總明)田中(隆三)米城
其他有力なる幾多の論客のごとき悉く僅
かに落選を免かれざりしもの一として足らざる
を見れば政友會の以てする所國民に飽かれたるや
の一端を示したるものなりや
○抑々斯る結果を来したる原因に就ては未だ
適当の政府攻撃の理由を見出さざりし
こと、第二國民の懶惰なりしこと其他
も理由あらんも主因たるは長く絶対多数を制

して漸く四民に飽えたると山本内客の気態を引
請けたるなど其の最大原因とらずんばあらず
○これを引きこく政府堂に於ては憲政あるを以
来初めて理由ある解散を断行したるとて寧ろ
解散を誇りとする色あり政府堂の氣勢の
揚りたること今次の如き日本の憲政史上に無き
所なり且つ政府は飽まで憲政的の道を撲
の範を無みんことを期し一面監督を厳ましん
違犯を假藉なく正し主ら言論戦を以つて
金銭に易へたるの故に言論戦の盛んなりし
ことに亦日本憲政史上空前と[illegible]所[illegible]既に
言論戦に依り勝利を[illegible]閣大臣の全[illegible]

遊説するこの数月の久しきに渉りたることき
えんも又憲政史上特に[illegible]すべき事と属す
○如斯きは皆な政府堂に勝利の悩しとする所
以なりと思ふも最大の原因は満天下大隈伯に
同日情[illegible]の悩しとることなり一トロに云へば政
府堂の勝ちたるは同志会の[illegible]働らきな
ありて中正会の協力は後援会の働きなりしなり
大隈伯の勝利と云ふの外なし伯なりければ
解散に如何なる充軸ある理由ありとするも
恐らく今次の如き結果を見る能はざりしな
らん
○四民の蘇峰は公平を衒ふこの大隈伯に

我し内心証敌するを欲せ
所い断さるも伯の論利多き

今回の珍現象と云ふ可きは、敵も味方も大隈伯を中心的標目として、競争したる一事也。乃ち今回に於て、若し政府黨の勝利が、五分とせば、其の四分迄は、是れを大隈伯の勝利に歸せざるを得ず。若し其の勝利が、十分とせば、其の八分迄は、是れを大隈伯の勝利に歸せざるを得ず。要するに今回の總選擧は、加藤外相、大浦內相の總選擧にあらずして、大隈首相の總選擧也、否な早稻田の老偉人として、內外に喧傳せられたる、大隈伯の總選擧也。吾人は必ずしも大隈宗の門徒にあらず、然も事實を事實とせよ。世間が愚にもせよ、賢にもせよ。世間は大隈伯を相手として、此の總選擧を行うたり。大隈伯足跡の印する所、御味方黨苗生す。同志會何者ぞ、中正會何者ぞ。彼等は大隈伯を掩護す可く屬言しつゝも、却て大隈伯に掩護せられたるにあらずや。是れ實に總選擧に於ける、一大珍事たらずんばあらず。大隈伯は果して世間の信望を繫ぐ可き素質を有する乎。大隈伯より其の八十に垂んとする老齡と、其の踏躪する生活と、其の早稻田に於ける、豪華にして且つ開放的なる生活と、其の約五十年に垂んとする小說の如くなる經歷とを控除して、小說より奇なる經歷とを控除すれば、剩す所幾許ぞ。吾人は現時に於ける、風袋の大隈伯の、或は却てが如く、正味の大隈伯の、加藤男、大浦子の下にあらんとを虞れざるを得ず。然も現內閣は、大隈伯を看板とし。大隈伯は、其の風袋を看板とし。看板の向ふ所、天下に敵なく、遂ひに其の目的を達し、若しくは其の目的の若干を達し得たるもの〻如し。

抑も政友會は、果して彼が如く失敗せねばならぬ罪惡を有したる乎。吾人は固より政友會の信者にあらず。されど若し政黨に罪惡ありとせば、政友會のみの罪惡にあらじ。多くの場合に於て、罪惡は各黨共犯にして、總ての場合に於て、懲罰は政友會の獨擔とするは、卿か公平を失するものにあらざるなき乎。それ然り豈にそれ然らんや。政友會は多數黨として、他の憎疾を受く可き地位を占めたり。政友會は山本內閣と倚死して、却て他人の濡衣の大半を引被れり。登じ來れば政友會擁護の聲は、其の自業自得にして、今更ら誰を怨むる餘もなき也。

更に政友會に取りて不足なりしは、其の看板なかりしことは是れ也。街頭の人氣は、理性に謳歌せずして、感情に謳歌す。政友會總裁原氏の如きは、本來官僚の巨擘たるを得可きも、煽動政治家としては、星享の草鞋の紐を解く程の資格なし。彼の對手としては、加藤男こそ、好取組なれ。之を以て本來富豐なる素質に加へて、三十年來一心不亂に、煽動政治家の修養を積み來れる、老巧無比の大隈伯に對抗す、其の勝敗の數、逆睹するに難からず。若し善良なる意味に於て、日本に所謂る煽動政治家ありとせば、其の標本は、確かに大隈伯たらずんばあらず。彼は群衆心理を即座に嚥下し、即座に之を自個の意見として、吐き出だす機略を有す。南部鮭の鼻曲りなる原氏には、とても其の藝當は覺束なき也。

是れ尙ほ忍ぶ可し、忍ぶ可らざるは、更らに政友會が、其の平正、簡明なる政綱を有せざりし事也。政綱は必らずしも詳密、委曲を要せず。政綱も亦た看板也。然るに政友會には、看板とす可き政綱あらざりし也。大隈黨は、多數黨の橫暴を制するを以て、其の戰陣の合言葉としたれども、政友會には、一の合言葉さへあらざりし也。而して彼等は何事も防禦的に、繩疏的に出で來りて、一も進攻的の態度を取らざりし也。惟ふに原氏は編禪としては、餘りあるの材なるも、大將としては、頗る進善の餘地を有すること〻を暴露したり。

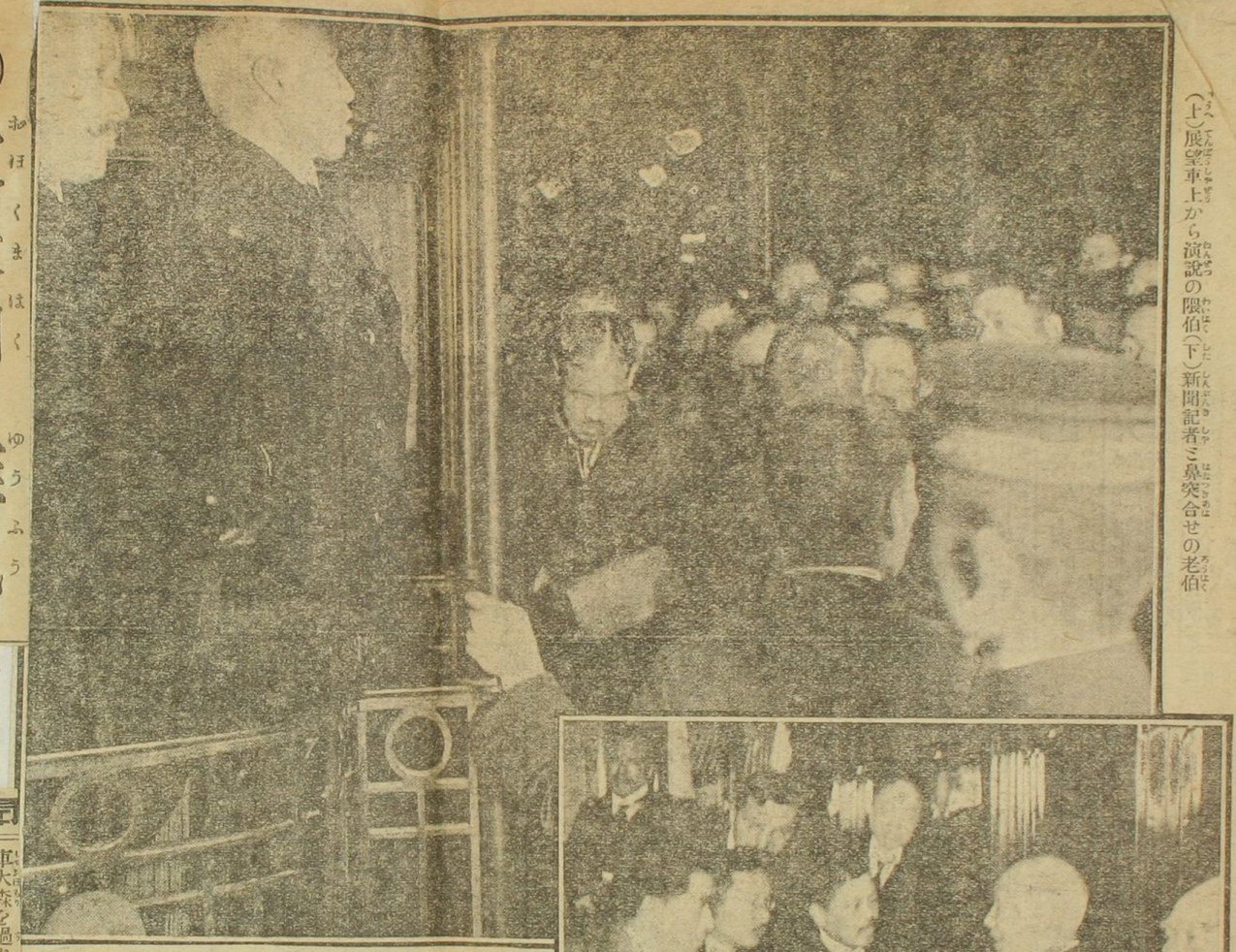
人或は大隈伯を以て、維新元老の掉尾と做す。然も焉ぞ知らん、彼は大正新時代煽動政治家の嚆矢たるを。吾人は我が帝國の前途が、如何なる政治家によりて指導せらるゝかを知らず。されど今後に於ける政權の主張たる、群衆崇拜の神髓となる人物の典型は、却て此の八十に垂とする隻脚翁たるなきを必とする能はざる也。平民政治は、群衆政治也、群衆政治は、感情政治也、政界の前途亦た多事なる夫。

○北の迎來義と大隈伯の贏ち得し數のみ
うち陳腐なる往來の送年運動の幕を一掃し
新たなる言論戰をなすことこそ日本
憲政の百年の後も語るべき

一切績学と謂いさる一のなり

○伯自身も選挙間際に至り終に出せる欧米政治家の為に傚ひ各ステーションに演説を試み大阪に名古屋無理に其の到る處一場の演説を其量候補者をして偉大の結果を収めしめたり伯の遇る所風靡の概あるは事実の明らかに証する所、今回の総選挙を以つて伯の総選挙と為す所以也は証言にあらず

こゝに伯の関西無理旅行に関する所々の記事や挿絵を紹介するを収めこゝに伯の此の運動を憲政の記念の例を写しきこれこのまゝ其の一行中にまゝ余自



（上）展望車上から演説の隈伯（下）新聞記者と鼻突合せの老伯

○大隈伯の雄風

萬歳聲裡の車窓演説

快晴の三月十六日午前八時の前より東京驛は數多の縉紳を以て埋められたり大隈首相は此日を以て大阪下りの門出に就く

▲滊車中　首相は驛に着す

新矢口幸長

ると程なくエレベーターにて歩廊に現はれ出で例の久松氏の肩により高橋驛長の先導にて莞爾として列車

最後の展望車に乘れり

久松氏の外箕浦勝人、市島謙吉、大隈山崎兩秘書官等同車に乘ず列

聞年中無休刊

車大森を過ぐる頃より首相は眼鏡を掛け卷煙草を吹かしながら東京各社の新聞を片端より讀み始め折々箕浦、市島、大隈の諸氏と快濶に談笑を交しつゝありしが八時三十七分滊車平沼に着すると共に首相はやをら身を起して高帽子を取り

先づ第一回の車窓演説を試む可く

偉大なる其頭をヌツと車窓より突き出しぬ旭日輝々として伯を

照せば伯の其巨頭はピカ〳〵と光りね恰も其の直下に同地の隈伯後援會推薦の候補者**平沼亮三君**

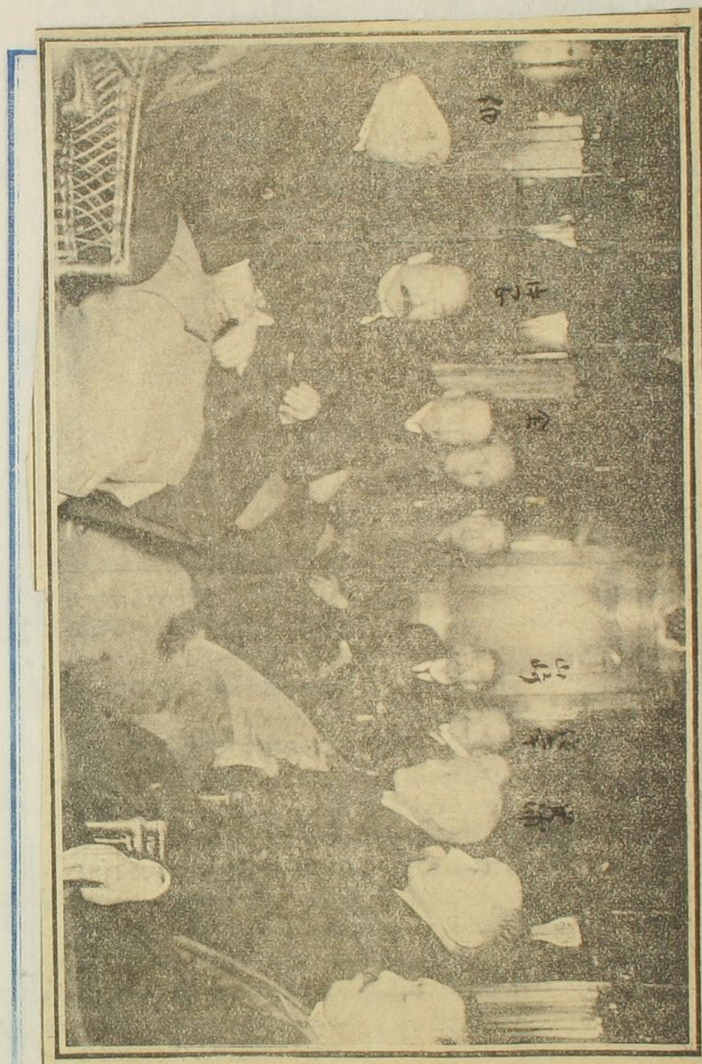
背廣服着て肅然と立てり歩廊に群がれる數多の歡迎者は天地も搖げと萬歳を叫びぬ活氣奔逸停車場裡を震動せしむ停車時間は僅かに二分然も伯は先づ一同を見渡しつゝ忽ち音吐朗々として第一回の車窓演説の口を切る

▲平沼驛　「諸君の懇篤なる歡迎を予は先づ謹んで謝する者なり**横濱の膨脹と發展と繁榮**との爲に諸君が此平沼君を選擧されん事を予は諸君に望む平沼は横濱の發祥地なり此平沼開發の大功勞者たる平沼君を選擧するは横濱市民の誇ではないか」との意味を非常なる大音もて滔々と陳べつゝ終つて平沼氏其他に向ひ「此歡迎の諸君は皆近所の人か」と尋ね「否近在の各地より**特に代表者を出**せしなり」との答へを聞きて喜ばしげに莞爾として頻りに幾度も首肯きつゝありしが二分は其中忽ちに過ぎて列車は徐に動き出しぬ首相は其の時更に平沼氏の手を固く握り**萬歳の波に送**られつゝ徐かに西に向ひたり

▲國府津　白雪を戴ける富士の根は次第に雲間より見ゑ始めしが雲は次第に拂はれて刻々鮮かに見ゑ始めたり九時卅八分國府津に着けば足柄下郡の早稲田校友會代表者吉田義之氏出でゝ歡迎の挨拶を述ぶ首相は茲處にては談話的に吉田氏其他の人々に向て「此邊は今迄隨分犯罪者も出した非常に紊亂した所だから我輩も隨分喧しく取締つたから今度は犯罪者も無からうが諸君も是から此惡い氣運を一洗する事に力められん事を望むのである云々」と語る折柄何人か「彼處に宮樣がお見ゑになる」と云ひ出せしかば首相も其方を打見遣ればいかにも北白川若宮殿下の御三方御一方は御附の肩に倚らせしが折しも同地の隈伯の別莊に成らせ給ひて恰も**停車場の柵外より此光景を臠**はし給ふ首相は之を拜すると等しく直ちに小松氏に扶けられて列車の露臺に現はれ出で叮嚀に其方に敬禮し奉りていと愛情に滿ちたる聲にて「オー〳〵」と云ひつゝ飽かず其方を莞爾やかに眺め其間に五分停車の時間も過ぎ滊車の進行を始むる迄も其方を眺め奉りしが歡迎の群の萬歳の聲に始めて我に返りしが如く**再び其方に敬禮しつゝ列車**の中に歸り入りしが軈て首相は又身を起しツカ〳〵と新聞記者の乘れる車内に來りて「オー〳〵來た〳〵」と上機嫌なりジヤパン・アドヴアタイザー主筆フライチヤー氏外一名の英人も此間に首相を訪ねぬ

▲山北驛　列車は富士の山麓を只走りに走る富士はいと鮮かに晴空に懸る雄大の景、首相は此富士に對して坐しつゝ**土耳其帽の如き帽を冠**りて又も新聞を讀み耽り居たるに列車は機關車を附くる爲とて山北驛に十時十五分と云ふに着したれば首相は又も露臺に立出で候補者戸井嘉作君の堂々たる歡迎演説の間口を一文字に固く結びて傾聽したるが歡迎の辭の了ると共に首相も莊重の口調をもて「抑此處は山脈重疊東海道と關東とを此山を以て分てる處、**斯かる處は人心も自ら壯快**ならざる可からざるに不幸良からぬ或る政派の爲頗る氣運を紊亂せしめ種々の害毒を貽したりされど今や國家の氣運も一轉し又政治界の氣運も一轉したり希はくは茲處に集まらるゝ此南北足柄の諸君も此際充分に努力して戸井君幷に大村君の爲神聖なる選擧を行はれよ」と說き山氣に籠る萬歳の聲に軈て函嶺の隧道に進めり

▲沼津驛　十一時卅分列車沼津に停車すればフロック姿の後援會候補大村和吉郎氏太田郡長始め**千五百餘名出で迎へ**列車の歩廊に着すると共に大村氏の援助者縣會議員石井研二氏歡迎の辭を讀み始めぬ露臺に立てるフロックの首相其下に立つフロックの大村君相對せる横合より麗らかの日光は燦として射入し伯は宛らに温かの日光に包まれたり「斯く多數の諸君の歡迎を受くるは先づ我輩の深く感銘する處なり抑大村君は伊豆の名士にして且つ**我輩とは三十有餘年來の友人**なり最初には改進黨の爲に大に盡され其後三十年一日の如く常に不正者と奮鬪しつゝ逆境に處して屈せざる堅實にして立派なる正義の士なり國民の選良として實に恥かしからぬ國士なれば諸君も希はくは大村君の爲に神聖なる投票を希ふ伊豆は元來非常に人氣よき所なりしに或る政派の爲に汚されたりされど此際に改新して大に大村君の爲に盡され度し」との演說をなす歡迎の人は七里も先より態々來りしもありしと云はる五分は軈て過ぎ去りぬ列車は徐かに動き出して**一路大阪を指**して走れり（沼津にて特派員）



車中の大隈首相（向て左の端に土耳其帽を被むれるは大隈首相）十六日汽車中にて撮影

東京 櫻原製

（第三種郵便物認可）（日刊）大正四年三

大隈伯のニコ〳〵

北間樓を出でんとする時

驛前奇遇

△大隈伯と中橋氏
△高橋男との會見

蓄音機演說丈けでは我慢が仕切れずとあつて自ら野黨の橫邪を掃滅すべく七旬の老軀を挺して關西遊說の途に上れる**大隈首相**、沿道到る處官民有志の歡呼熱叫を浴びつゝ車窓演說に專賣の**長廣舌**を揮ひつゝあるは人の知る處なるが今回橫山候補應援のため一昨名古屋より長驅本市に乘込み來れり、途上六聖寺、小松、松任等の各驛に於て歡迎の群衆に例の**滊車演說**を試みて席暖かなるの遑もなく昨朝午前八時五分豫定の如く當驛に着車せり、**雲霞**の如く押寄せたる官民有志の旺んなる**歡迎**は別項記載の如くなるが時恰も中橋候補のため聲援演說に來澤中なりし**高**

橋是清男が**中橋氏**其他有志の見送を受けて當驛に入り來りプラットホームに於て計らずも首相と此の敵黨の兩領袖が偶然鉢合せを演じたり、闥を排して悠然驛内に立降りたるフロック、黒帽扮裝の首相は微笑を含んで先づ高橋男と慇懃なる**握手**をなしたる後中橋氏の**肩**をポンと輕く叩きつゝ「怎うだ遣つとるか」とニコ〳〵、中橋氏も敬意を表して叮嚀に挨拶すると、伯は「君も**我輩**と一緒に來て**遊説**したら怎うだ」とのことに中橋氏も「閣下も却々御苦勞ですな」と双方相顧みて破顔一笑、斯くて首相と兩領袖とは東西に袂を分ちたるは時節柄趣味多き**會見**として幾多並み居る群衆の好奇の的となりたる由なり

△身も一行中にあり例なくて無
劇を目を回す能はず大
阪に着しとなる四枚のことき
金の室は戯多中の幹部
のぬき観ありなるが、係し
伯の頃ありて何時も無味あ
り而して此行有も趣味を
見くなり、伯の此行大阪に
於て氣候を吐きたるも
関西一帯の氣勢を鼓
舞したるにあらしかば、無限と見横
山のあるも二三参謀の特に来りて急

を告げ是れ座接を知れるあり、伯も
其の後を容れ遂に大阪二泊の餘定
を変して二日目の枚無限に出發す
る事となりたるが、此路は名古屋に
立寄らんとは同日の小山杉壽候補を訪
会すると泣き言をなし出で、已むなくそ
れなら悦むことゝなり二枚全く汽車に乗
り続けの急行き旅に伯は度分を
意とせず無限二ヶ木の演説をなる
や喫烟の時間もいとまもなく復た
汽車に上り高松十時と云ふに名古屋に
着し同校館に壮快なる演説を試

みえたり、而形成尾の党員を定まり壮
絶とも手あるく四方頭に入りて帝都なる
弐千の雑家と金(返)上京を薬つき給
の返(迎)を迎へて唱来しめたり、此旅行三日
間而して其の収めたる効果を他の政治家
る人の万々間努力してるよりも優る
○伯の人気の大なるは前自述のことくである、伯
後援会の人気のあるのも常に於て後援会員
自身と微力の者なりと雖も伯の人気が大
なるにつき後援会を利き徹し鉄(中)を受け
敢て後援会自身人を誘めさせあらしれ
会も到る処会の組織をえ候補者各地の候

補者も連りそ此会の候補たらんことを欲し会
に求めたりしも当数の候補者をあてることと
なり結局専属の候補四十三名の内二十八
名の選出を当選を見るに至れり
○元初会の後援会長に推薦を受くるや
思ふらく伯を政党として而して後援会は
設令政党にあらずと言ふも伯の嫡流なり旦
参じたるも純然たる異党の嫉妬猜忌を招
くこと無し伯の異党と競争するなれば今を
路く猶を制せんとしたるものあるに其の協力を
あらず政府党をして選挙に勝利を得せ
しめんとし又同士打を抑へてなる一あらず

同志中正既に同士打を[illegible]為すの打柄、会に
して自ら抑へ他の同士打を制するにあらずす
んは[illegible]或は恐る絶選者の結果は政府に
不利に終らんと、ここに於て会は寧ろ政社の偏
出を為しとする抑らず、故ちに会は政社にあら
ずと都言し、自ら進むに候補を立ること
を為さず他の興者に候補なき處と場合に
於て初めて会の候補を立ることを可し力めて
論抑の態度を持たり
○去んは南初後援会の起るや同志中正の領
袖は之れを以つて寧ろ有害の邪魔れなし
かなれば就事やもも峻に泊に勤して感覚に

不可を得らしめり而して余等ちに着けられ如
上の方針を取るに造むで彼等は漸く会の
真意を解し加ふるを会見の時も日余に向
つて君のぬき人を会長に得て初めて安心すると
言へり、実は渠等の抗議猜忌も謂はん無
きにあらずす倘は後援会に最も依頼し内
渕に在りても折に觸れて会の勢力を云々し
[illegible]之れに信頼するの奥意を漏らしたること一再
ならずなりしせ
○会の最も力を以て龍のいるは言論にあり遊説
にあり会は唯ちに専属の候補に対し遊説
の援助を與へとるかんとしまた同志中正の興

堂其のすべて向ひて力の所に限り同様に援助
を與へ給ふ金を金玉を六匹に分ち三人四人を一隊
とし相当の演説者をして之れを率ゐし見之れを
二週間乃至三週間遊説せし見ゆ又別に村田
保谷をして前後二回幾人と十二月間全国
に遊説せし見ゆ言論戦に於て後 ニ陟り
援会の努力しなる他無堂の企ひて及ぶ所に
あらずして全国の氣勢を之れによりて揚ゆ
大隈首相の関西無限に赴ひきなる選挙の
前日東京市に二ケ所の演説を試みられなる
亦実に後援会の為めにもなれなる者 後援会
也

廿一日	廿二日	廿三日
日	月	火
秋田 弘前 盛岡 仙台		
秋田 弘前 盛岡		
発	着	発
后	后	前
一四五	一〇五	一一五
五五二	八二五	四二三
青森		
着	前	
二三三	三三〇	
弘前 盛岡		

月日	演説場所	発着駅		時刻	来換駅		時刻	宿泊地
三月一日	月	東京						
二日	火	藤枝	藤枝	発着	一、二三			
〃		島田	島田	発着	三四七			
三日	水	掛川	掛川	発着	九三五			
四日	木	桑名	濱松	発着	二一三			
五日	金	津	桑名	発着	八〇九	大船	着前	七三五
六日	土		津	発着	一二、二			
七日	日	山口	山口	着発	七、一三			
八日	月							
九日	火		下関	発着	七、一〇			
十日	水	福井	福井	着発	三四七	米原	着前	一〇四四
十一日	木	金沢	金沢	着発	八三二			一〇六
〃		富山	富山	着発	三二五			
十二日	金		松本	着発	一〇、九	直江津	着後	
十三日	土	松本	前橋	着発	九三五	篠井	発前	一一四五
十四日	日	前橋	古河	着発	二二の四	篠井	着後	一一四五
十五日	月	境	境	着	三三七	高崎	着前	一〇四三
十六日	火		古河	発着	九〇三	小山	着前	一〇二〇
十七日	水	高田	高田	発着	九三五			
十八日	木	長岡	長岡	発着	一一五一			
十九日	金	新潟	新潟	発着	八五五			
廿日	土	山形	山形	発着	一一〇八			
廿一日	日	秋田	秋田	着発	一一三五			
廿二日	月	弘前	弘前	着発	七〇七			
廿三日	火	盛岡	盛岡	着発	八〇五			

月日	演説場所	発着駅		時刻	来換駅		時刻	宿泊地
廿一日	日	秋田	秋田	着発	一四五			
廿二日	月	弘前	弘前	着発	五五二			
廿三日	火	盛岡	盛岡	着発	一〇五			
					八二五			
					一一五七			
					四二三			
					青森	着前	二三二	
							三三〇	
					弘前	発前		
					盛岡	着発		

大隈首相の関西遊説に赴くに際し、前日東京市二十ヶ所の演説を試みたる後援会の為めなるべし

東京朝日

多く収まる一表ハ村田翁三月に入りて遊説

此程ハ三月前の遊説の程を瀾く

○後援会専属候補と四十四名とさきされたる

同志倶楽部中正二党に籍を置き会の専属同

様の援助を与へたる者二十名○りてあり

此等ハ殊ニ単ニ遊説の援助を与へたる

のみならず選挙費用をも与へて援助したる

者其ハ事実ハ殆ど六十四五名の候補を選

しかるものを謂ふべし常ニ同志中正所属

の候補者なりとも同会の名義の下に戦ひたる

なる者百に垂んとす以つて如何に後援会

を名乗ることの選挙に便利なるかしやを

壹党のすぺきハ向ふ力のなる小派り対候補後助

◎後援會

推薦候補

大隈伯後援會にては選擧期日も切迫し決勝點間近となりたるより各地方に於て候補者の整理交讓を行はしめいよ〳〵結束を堅くして最後の奮闘を試みつゝある由なるが目下確定の推薦候補は左記の通り總數百四十二名、內後援專屬の者四十四名、繕を他政派にする者にして二重推薦を享くる者十八名、外に未だ同會より公然推薦の手續は濟まざれども自ら後援會を標榜し又は地方後援會の推に依りて運動しつゝある者京都府片岡直温、山口俊一、神奈川縣永松安次郎、靜岡市高木來喜、石川縣田中三太郎、淺野順平、佐賀縣加藤十四郎の七氏あり是等を加ふる時は後援會名簿の下に候補者として戰線に進み居るは總計百四十九名にして內早稻田大學出身者四十名を含むよし

▲東京府（市部）頴田木桂吉、三木武吉、荻野萬之助（郡部）守屋此助、高木正年
▲京都府（市部）奥村安太郎、中安信三郎、森田茂、加藤小太郎（郡部）清水仁三郎
▲大阪府（市部）蒲安新九郎、金澤稻次郎、石橋鈴之助
▲神奈川縣（市部）平沼亮三、島田三郎（郡部）小泉又次郎、山宮藤吉、戸井嘉作、川井孝藥
▲兵庫縣（神戸）田村新吉（姫路）砂川雄峻（郡部）齋藤隆夫、肥塚龍、西村眞太郎
▲長崎縣（長崎）岡部政太郎（對馬）早川鐵治（郡部）田川大吉郎
▲新潟縣（新潟）齋藤喜十郎（佐渡）瀨下清通（郡部）久須美東馬、飯塚瀬一郎、川合直次
▲埼玉縣高木利平
▲岐阜縣（市部）河崎助太郎（郡部）降旗元太郎、岡部次郎、樋口秀雄
▲長野縣 風間禮助
▲宮城縣 小山東助、首藤陸三
▲福島縣 鈴木寅彦、長澤倉吉
▲岩手縣 瀧本誠一
▲青森縣（青森）工藤十三雄（弘前）菊池武徳（郡部）中野德治、竹村鉄次郎
▲山形縣（山形）大場茂馬（米澤）香阪嗣太郎
▲秋田縣（市部）井上齋居（郡部）町田忠治、伊藤恭之助、添田飛雄太郎（郡部）齋藤宇一郎
▲福井縣（市部）八田裕二郎（郡部）今村七平
▲石川縣（市部）横山章（郡部）岡戸寅松、武田忠臣、櫻井兵五郎
▲富山縣 山田正年
▲鳥取縣 大谷誠夫
▲島根縣 保科碩治
▲岡山縣（市部）大戸復三郎（郡部）桑原伊十郎
▲廣島縣（市部）早速整爾（郡部）桑原伊十郎、竹內正志
▲和歌山縣 小山谷藏、山道襄一、有田濃三、宮原幸三郎、横山金太郎
▲德島縣（市部）武市彰一（郡部）須見千次郎
▲香川縣（市部）中井隼太（郡部）增田穣三、小西和
▲愛媛縣（市部）高野金重（郡部）今西林三郎、武內作平、才賀藤吉、清水隆德
▲福岡縣（門司）石田平吉（小倉）栗飯原錦次郎（久留米）淺野陽吉（郡部）中村再造、武田精太郎、佐々木正藏、生駒武彦
▲佐賀縣（市部）豊增龍次郎（郡部）武富時敏、西英太郎、井原喜代太郎
▲宮崎縣 大塚氏明
▲北海道（札幌）松田學（小樽）金子元三郎（郡部）小池仁郎、佐藤榮右衛門、五十嵐佐市

伯爵大隈重信氏
去る二月十七日午前十時上野公園に於て、國民葬の令旨を奉じて、國葬の禮にかれてろば伯爵

去る一月廿一日米國一周の途に上りたる北米合衆國ワシントン市加藤大使館にて加藤大使夫人の催せる送別會の席上、來會者に撮影したるもの

見るべし、而してこれ取りも直さず大隈伯の随家
に人氣あることを表明することなり也
○後援会ハ興黨の立て得さりし家に（敢て候補
を立て、強敵と名ひ多くハ縁を制し給ひ此等の
特記を要す、例ハ花川郡重保市に巾橋に郡
抗して横山章を立てることき前橋市の井城
県三郎に郡抗して大隈伯者を立てることき
沂河市に重保秋田市に井上廣長（男
隆三に郡し）岡山市に大戸復三郎（坂本重保に
郡し）を立てることき皆な政友会若くハ同民黨
の相接地方を立ふべき不可也郡抗者容易
とすれば此等法市の内岡山の大戸を收んとすと

并ても僅々皆縁和に帰し給ひ当横濱の平沼
札幌の重子（元三郎）名古屋の小山（松壽）平原
の頼母木祐戸の田村新吉大阪の幣の重保
等皆な大隈を係し給ひ
○而して後援会ハ今回の選挙に於て殊に力
を以て前橋重保の二ヶ所にて此の二方
面に敵味方の死力を尽し給ひ所謂天下の
耳目を此の二選に集注し実に選挙の兼
ありき前橋は大隈伯令嗣の立ち給ひ所、初
めらも優勢なりしといふ敵も主力をここに
注きしることにて如何なる変化を来さんも図
りうるべく防御の始めに特に其今なりも幹部

の一人を派して恰機策戦せしめ敵物ゝ其應
出身なるとも義塾の力を尽して反抗せるを
終々防守し得て敵をして死者の敗を知ら
しめ
○金澤に至りては戦間の殘模前橋市に比すれば我曾
大なりして実に逐若場の一大壯觀なりし敵を政
友今未来の閣員を抑し十萬の金を政府今
々焼りたりとの世評ある中橋まで実に初め之れに
敵抗するの候補を得せるに困めり所して之れに
敵抗若横山を起れしめ之れに大隈伯と今をとして
中橋に意外の大敵に出合しなり然れども敵
も善く敵の若中能者に南岳の勢を

悟南と注せるん会頭なる余は選者に先つ
十数の前特に習問出張して参謀の参謀を
つりとせん後に大隈伯まで應援せしむるに
至りなるを見て其戦ひ[illegible]
○金澤は選者八三千万餘に出る事の大市
にて敵手は京阪の実業家にも出る者も
[illegible]の[illegible]手をとく品をうく種々の
働らきを為すに敵し或は守り或は攻むる
處に実々の排列は言語に絶し両者人事
の[illegible]を[illegible]
[illegible]実に我憲政史上これ[illegible]盛んなる選者
は為りてこん無き所、会に於ても会[illegible]

若槻藏相演說會
第一 福助座に於て

若槻藏相及び市島大隈伯後援會長の演說會は昨日午後一時より香林坊福助座に於て開催せり、聽衆は會場も割れん許りに充滿し其數約二千名にして空しく木戸口より引返したるもの幾百なるを知らず聽て橫井伊佐美氏の紹介により急激の如き拍手に迎へられ市島氏登壇せり

▲市島後援會長

金澤には人物論盛なりと聞く、政治の研究は必要と認むべきも其人々の私の人物論は必要なし、其人物が政治上如何なる政見あるや國家の爲め如何なる結果を及ぼすやを研究して始めて決せらる、私は中橋君を尊敬するも今日中橋、橫山兩氏の人物を論する時にあらず、刻下天下分け目の戰にし即ち國家を憂ふるの人は大隈伯か原氏かを研究すべし、何故に伯か原氏かを研究する必要ありやと云ふに、天下の政治を何れに托するかを此選擧に依つて決すればなり橫山氏は伯の政見に賛して之れを援けんとする人、中橋氏は原氏の麾下に立つて政友會を援けんとする人に非らずや、然るに聊か旗幟判明を缺くの嫌なきにあらず开は國民黨の犬養氏の推薦廣告を見る事之なり、政友會と國民黨は重大問題たる國防論に絕對反對の位置にあり根本を異にせる犬養氏に推され一方政友會にも推さる、左すれば非大隈黨と見るを至當ならん、伯と政友會とは天下の源平を以て任ずる二大黨なり、橫山氏如何に偉らしと雖も伯の下に起ち、中橋氏も全然原氏の下に起たざる可らず、依て此天下の大問題を決するには大隈伯か原氏に依て決せらるべし、而して此の二人の人物論を左互に研究する價値ありとて兩者比較論をなし伯をして世界の偉人と云ふは或は過賞ならんも、實際世界には故伊藤公及び伯より外に知られるものなし、原氏は大多數黨を統宰する人として日本には知られ居るも歐米諸國に於て誰か原氏を知るものあらんや、此の兩者をして何れに天下の政治を委するかは論ずるまでもなし、今日の如く兄弟墻に鬩ぐの失態を外國に知らしむるは國民の耻辱なり、何故に原氏が政府に突擊して解散を敢てせしめたるか當初議會に於て外交を捉へて攻擊せんとし國家の耻辱を暴露せしが如きは之れ亂臣賊子の働きと云ふべし、外交に瑕瑾を發見せざりしより更に轉じて國防二個師團問題を以て解散を餘儀なくせしめたるが如き國難の際眼中國家なしと云はざる可らず、伯は昨年內閣を樹立せし使命の大なるものは黨弊の廓清を始め種々なる惡弊を芟除せんとし、先づ海軍、宮內省、傳染病硏究所等の大小問題の掃除を遂行し一方財政の整理に着手しつゝあり、尙ほ大なる抱負は憲政を布かれし以來政黨の惡弊を打破せんと腐心せる際端しなくも解散となりたり此解散こそ政界を一掃するの好時機とすべし、今日の大政黨は果して輿論に基きしものなるや何れも利益交換により尨大

を爲せり、伯の大なる經綸を忌憚なく斷行せしめんには僅か一年位の短日月に其手を現はし得ざるべしセメテ三四年繼續せしめて始めて總ての暗礁を打ち碎き實績を現はし以て後進者に其器を讓れば原犬養の後進者も亦好都合なるべし、伯は今更何を苦み老体の身を以て內閣の椅子に戀々たるものあらんや、只之れ　陛下に忠節を盡し國家を安泰ならしめんに外ならず、事業中途にて而も國難に際して伯を倒さんとする原氏とを對比し諸君は國家本意を以て今日の大隈伯か原氏かを思へば從つて橫山氏か中橋氏か兩者を選擧するの問題は自ら判然すべし

参考の為[illegible]掲ける中心の
新聞紙上ニ報[illegible]全文の演
説の概要を掲け[illegible]
[illegible]の状況演説を
大隈伯の[illegible]氏の
也
又国ニ於テ三宅の弁護を要
[illegible]全[illegible]大隈[illegible]
[illegible]
[illegible]を摘出す、三宅
ハ中橋の最も[illegible]弁護士也

中橋の核芸石川紀事所載

先日色々の人が來られて色んな話があつた樣でありますが中に今の問題は大隈伯を援けるのと原君を援けるのとドチラに屬するかと云ふ人があつたと云ふ事で慥か後援會長と云ふ名前のあつた人かとも思ふ、夫れは何事を云ふて居るのか判らぬ（喝采）　大隈君に屬する原君に屬すると云ふ事は越後あたりであつたら通用するかも知れぬが、百萬石の城下で**大臣相當**の者を出すと云ふのは**原君の家來**に爲る爲めに出すのではない（拍手大喝采）、加賀にコウ云ふ人があると云ふ事を見せるのである（拍手喝采）、加賀つ坊としての中橋君が出るのである、原君は何であるか原敬君には相當の敬意を拂ふ併し屬する屬せぬと云ふ事はオクビにも出すべき事ではない（拍手）、大隈伯の原君に對すると云ふ事は一ツの**作戰計畫**であつて、唯嫌が

らしに思ひ出させる爲めに云つたのであつたさうだ、それは新聞に書いてあつたのを見たのだ、併し**大隈伯**は今の所**看板**である、**案山子**である、實際の事は加藤男と大浦子とが遣つて居る內輪の事は大浦子で遣るのである、**原君と大浦子**とドチラが善いかと云ふと人は一寸首を傾ける、事實を持ち出しては善くないから一ツは看板一ツは事實として出して居る、何にしても七十八の老人、隨分之れまで經歷のあつた人で幾分の敬意を拂はなくてはならんから隨分可笑事があつたにしても先づ老人の事だ（喝采）其の大隈伯を持つて來て一方に今働き盛りの原君を持ち出して嫌がらしをするのである、**嫌がる樣な人**が百萬石の城下にも或はあつた樣にも聞いて居る。

三宅の云ふ事は[illegible]ナンニして
も平生大きなことを云ふて居る癖は地方
に編し此人相論などをつて居るのは窮態
笑ふに堪へず

○後援會の力で或許の人が[illegible]
二十八人丈をとらうとして居るが他は出先の某根
に於て充分調べる材料が無い、大体同志会
が非常の数を得ないのは主として伯の聲望
と後援會の力無つて居ることを云ふまでも
無い[illegible]同志会[illegible]自身は自力は依
る様に考へて居ることも知れぬ此の場合に
手柄爭をすれば後援會も默しても居

くんなりいが、忌うし大事前に存ぜしに千柄
争などをすべき時に無い
○大事とは何等典堂を一括して伯の今下
に一大政堂を作る事である、此の大事を為
さんとするに典堂内の猜忌嫉妬を買
はぬ様に務めばならぬと思ひ先づ覚
悟を極めた、先づ何寄り急であるのは
伯の典堂に勤し後援を努力したい
お蔭で政府堂大勇敢をしめしたるに
例のごとく飽も吹聴されぬことであ
ると氣付へ此事伯に大捷を祝したい
席に此事を注意した

○伯も時機を見て大政堂を作る氣でなる、先
に勤して加藤などうちくて居るのを
流れに伯に譲る氣になりて居るらしい
何れにしても後援総選挙に新く集切
したい上は大政堂を形くる様人なれば大隈
伯の勢力即ち二ヽ以上伯を総
理とする政の堂を作るとしたいは無い、而し
て後援会は之れを助成するの一媒妁が
なりさるを得ないこと論抑を以つて
立つことの肝腎である

大隈伯後援會論

總選擧中の著明なる現象

總選擧の期日は愈々旬日に迫つて來た。朝野兩黨の勝敗は開票の結果でなければ斷言することは出來ないが、今度の總選擧で從來のレコードを破つた最も著明なる現象は、政府側の人氣と勢力が、素晴しく壯な事である。是迄解散後の總選擧といへば、國民の同情と聲援は必ず在野黨に傾いて、政府黨の候補者にはどうしても人氣が附かなかつた。其爲め、政府は干渉もやらねばならず、賄賂を使はねばならず、買收もしなければならなかつた。然るに今度の總選擧では、在野黨の人氣の惡い事は夥しいものである。政友會は何處へ往つても、評判が惡い、國民黨さへもひどく人氣が落ちた。然るに政府側の候補者は到る處に同情がある。不思議のやうだが不思議ぢやない。是は無論大隈伯の人氣に伴ふ國民の同情から來て居るのである。大隈伯後援會が、期せずして全國各地に起つたのは即是が證據である。

大隈伯後援會に對する批評

此大隈伯後援會といふ者は、日本の政界に初めて現はれた新奇な現象である。先づ之を冷靜に觀察すると、國民の大隈伯に對する日頃の人氣が、總選擧に際して俄然結晶したものとも言へやう。人氣であるから形體は漠然として居るが、其期望を具體的に言つて見ると、矢張大隈伯を尊敬する所から其政治を信用し、其政治を信用する處から從つて伯の主宰せる內閣の外交政策も財政々策も師團增設も悉く承認し贊成し、擁護するといふ事になるから、性質は運動的のもので、又國民的のものてはない。政府反對黨などは無理に之を變形の政黨らしいものに見立てゝ又さういふ風に言ひ觸らして居るが、是は自黨の運動に都合が惡いから、さう曲解して居るので、若し玆に原君後援會、犬養君後援會が假りに出來たとしたらどうだらう。政友會や國民黨はさういふ非立憲なものは斷じて許さぬといふてあらうか。現に木堂會などもあつて、選擧にどれだけの後援力を與へて居るか知らないが、兎に角此際一の聲援に相違ない。原會の出現を見ざるは、原敬君が其出現を制して居るのでなく、君はまだそれだけに人氣がないのだと見る方が本當である。大隈會が惡くて木堂會や原會がよいといふ理窟は立たぬ。兎に角今日の處、（將來之がどう間違つて行くか知らぬが）後援會は、其性質に於て明かに政黨政派でなくして、一つのムーヴメントてある。

政治學の見地より見たる後援會

我等は浮田博士が、政治學上の見地から、大隈伯後援會を冷靜に研究し批評した其意見を至極公平なるものと見て居る。博士は『太陽』誌上に於て之を發表して居る。博士は常に公平嚴正なる學者の立場から政治を論ずる人てある。之に對して未だ何等反對の論說が見はれない處を見ると、後援會に對する兎角の批評は、矢張各自の都合から言つて居るか、さなくば別に深く研究せずに雷同して居るものと見るの外はない政黨に屬して居る者は無論國民の一部てある。此政黨に屬せざる多數の國民は、「獨自の判斷に依て選擧の向背を定め、其熱心なる者は、相合して一の團體となり、以て聲援の氣勢を添るのは當然てある。英國などても政黨以外に種々なる後援團體が出來て盛に應援を遣つて居る。其運動は准政黨的てあるが、政黨とは全く性質の異つたものてある。大隈伯後援會は則それて、『これが政治思想が政黨の範圍外に蔓延しつゝある證據てあつて、將來國民一般が、政治的運動に參加する前兆と見ることが出來る』と博士は言つて居る。我等も之には同意てある。

了解されたる後援會

處が初めには斯ういふ誤解を抱く者があつたらしい。是れは、大隈伯が早稻田の關係から校友を基礎として、純大隈黨の第三黨を組織する下地てないかといふのであつた。此誤解は反對黨ばかりてなく、同志會及中正會の間にすら多少はそんな疑念を抱く者もあつたやうてある。我等も此等の黨派に屬する人から、そんな話を聞いたこともある。又第三者の立場に在る者にも、さう疑つてゐた者もあつた。是れは後援會に力瘤を入れて居る連中に、早稻田の校友が多い處から、さう見えたのは無理もない點もある。宛も遠くから見ると、雲も山に見え、山も雲に見えるのと同じ事である。然し其後少し注意して見て居る人には、山てあるか雲てあるかはすぐ分つた。大隈伯は政界の私生兒を造るやうなそんなケチな人てはない。政黨を組織する位なら、そんな隱し子を造るよりも、先づ其前に堂々と天下に宣言して、伊藤公の政友會を造つたよりももつと立派な大政黨を組織する筈だ。何事にも大を好む大隈伯が、殊に人氣の湧き返へる程聲望を博して居る際に、何を苦しんでそんなケチ臭い四疊半式の茶席を立てるやうな事をしやうか。後援會は固より伯の初より與り關せざる所てあつて、伯の同情者が遮二無二拵えたものてある。唯此同情者の中には、早稻田出身の紳士連の多いのは、是は又當然の事てあつて、多年伯の感化を受けた校友が、此際伯を援けて、伯の理想を實現せしめんが爲に、後援會に參加するのは怪むに足らぬ。若し校友が少しも參加しなかつたら、それこそ却て餘程問題になるべき事である。而して其參加した校友が隨分多いのは、早稻田の校友が、夥しく全國に散つて居るからてある。それて何だか少し色が付いたやうに見えたが、これは唯見えたばかりて、實は校友として活動して居るのてはなく、國民として活動して居るのてある。而して早稻田大學は之に對して表裏共に全く無關係の位地に立て居るのみならず、實際無關係の位地に立たんと欲して、高田學長が大隈伯や校友との私的關係を斷然超越して、學校の神聖を保つべく

非常に苦心して居るのを見ても、是は疑ふの餘地はない。同大學理事市島謙吉氏は多年政論界に活動し、又幾度か代議士となつた事もあるので、平生政治に多大の趣味を有して居る處から、今度も進歩せる國民の一人として活動したいといふので、斷然大學との關係を絶ち、後援會の運動に參加したのを見ても、後援會が純然たる國民の運動である事が分る。

後援會の方針

そこで大隈伯後援會の活動を少し書て見やう。先づ市島謙吉氏が會長に推選された。同氏は最初に後援會の方針を嚴正に規約した。其第一の方針として、後援會の候補者を立てぬといふ事にした。是が政黨的でないといふ何よりの證據である。第二の方針としては苟くも大隈内閣を擁護しやうといふ事にした。同志會でも與黨ならば、何黨であつても應援する事にした。同志會でも中正會でも、無所屬でも區別せずに援けてやることにした。是が又第三黨組織の意志のない何よりの證據である。今日の形勢では、大隈内閣に對する國民の同情は非常に廣い。同志會や中正會が全く地盤を有して爲ない處にも政府の同情が潛勃として居る處がある。斯ういふ處で、政府の贊成の者が候補に立てば、後援會は直ちに之を應援する。同志會や中正會の地盤の鞏固な處は、固より應援の必要もないが、地盤はあつても、地盤が弱い處で、同志會や中正會の候補者が立てば、後援會は之を應援してやる。だから今日後援會が應援して居る候補者は、中立無所屬のみでない。中には同志會の者もあれば、中正會の者もある。故に實際の活動を見て、眞相は始めて明白になつて來たやうである。則ち小つぽけな第三黨的のものではなくて、極めて廣い意味に於ける大隈内閣後援會であることが分つた。我等も此意味に於て、黨派的運動する事を超越した冷靜なる國民の見地から、後援會の活動を、政治上の進歩と見て歡迎する。而して又此意味に於て、將來博して、原君後援會や某々後援會が組織されることを希望する。政黨の言論中には、どうしても手前味噌がある。鹿を追ふの獵師山を見ず的になる。源平式になる。一人一人離して見ると政黨の中には立派な見識の人もある。然し政黨として判斷は、却て不偏不黨の純潔な多數國民の方に在る。此判斷は、政黨を監視督勵するのが、政治的に進歩した國民の責任だ。さうして此監視督勵を高潮する爲に、時には目立つたムーヴメントを起して、國民の意氣を見せるのは、我等の責任でもあり、又愉快でもあるのだ。若し西洋の代議政治にさういふ例がなかつたならば、日本で其例を見せてやるべしである。況んや英國などには昔から其例が澤山あるとしたら何にも問題はないてはないか。

後援會の應援せる候補者の頭數

今や後援會は、獅子奮迅の勢を以て全國を風靡しつゝある。全國の津々浦々、殆ど各縣に亘つて後援會の組織されざる處はない。多い處は一縣に六ヶ處もある。神奈川縣、靜岡縣、長野縣、兵庫縣、新潟縣、長崎縣、北海道等はそれである。中央の本部では、此等の各地の後援會と聯絡を取て、全國の遊説部署を六區に分けて、活動して居る。さうして同志會や中正會が全く手を出さぬ敵の根據地、例へば盛岡の原敬氏の根據地、岡山の大養氏の根據地などに向つて、勝敗を顧みず、突貫猛進して行く意氣込みは中々壯なものである。而して後援會の應援演説會はいつも滿員で、さうしていつも割れるやうな喝采である。今日同會が力を盡して應援して居る候補者は前橋市の大隈信常氏、金澤市の横山章氏、神戸市の田村新吉氏北海道の金子元三郎氏を始めとして約八十名ほどある。本部派遣の遊説員中で、全國を周遊して居るのは、例の村田保翁で、三月一日より三月二十三日まで連日日に二三回も演説をする事になつて居る。唯後援會に從事して居る人が、多くは從來政黨に關係したことのない紳士連であるのと、何しろ突發した運動であるのとで、駈引が分らなかつたり、殿樣流になつたり、同志打が起つたりして、隨分ごた〳〵して居る處もある。殊に幾ら人氣が向つて居るからといつて、定員の定つて居る處へ、多數の候補者が、後援會の網に取つかまつて互に同志打するのは、結局大隈内閣の爲には最負の引倒して、甚だ感心しない。本部は政黨でないから公認的の制裁力を持てないだらうが、斯ういふ處にも後援會の必要があるので、出す方へ助勢するのみならず、引込ます方へも助勢して、巧く按排したらよからうと思ふ。政黨であると是が遣りにくいが、後援會は其性質からしても、かういふ調停には都合がよいらしく見える。傍觀者は寧ろそんな事に氣を揉て居る。

後援會續々太平洋岸に起る

玆に最も注目すべきは、大隈内閣後援會が、太平洋の彼岸、カリフォルニア州に汪然として起つた事である。即加州在留四萬の同胞が、大隈内閣の維持を熱望するの餘り、組織的の後援會を造つて、或は金を本國の後援會に寄附し、或は檄を鄉里の知人に飛ばして、政府側の候補者に投票してくれと勸誘する事になつた。どういふわけで斯ういふ面白い新運動が起つたかといふと、如今邦家浮沈の岐るゝ多事の時、擧國一致して和衷協同の實を擧ぐべきに、徒らに政爭に腐心して、時局の紛糾を大ならしむるは、國家を危殆に陷れるものであるも。設し反對黨が直に代て政府に立つことになると假定して『何人か能く其聲望、閲歷、經驗、手腕の上に於て大隈伯の右に出で得る者ぞ。殊に帝國の消長に重大なる關係ある日米問題は、大隈伯の威望手腕を待て始めて解決せらるべしと米國人すら皆口にする所なるをや、吾人は國家の爲に斷じて大隈内閣の在立を必要とす』といふのが其動機である。此に於てか、桑港を中心としてシャトル市。櫻府。フレスノ市。ロスアンゼルス市。羅府、サンノゼ市。スタクトン市、ワツソンビル市。の北加、中加、南加の各地に内閣後援會が續々として起つて來たのである。

* * * *

是實に今回の總選擧に於て最も注目すべき新奇の現象である。吾人は多大の興味を以て是が更に如何に發展するかを注意したいと思ふ。

右ニ収むる切り抜き実業之本社ニ於ケル社説ニ
掲げたるものの余の説ニ同社一流の見解を加
味したるものなるんハ必ずしも余の意見と
吻合せざるものあるに、事業人等ニ関するを以
つて鄭助の情動きこゝに収め置く事
とす

表中(専)ハ後援會専属(X)ハ二重推選

大正四年三月 総選挙後援會推薦并應援當選者一覧

府県	市郡島	前完代議士	後援会	早稲田大学	職業	宿所	氏名
東京府	東京市		専			浅草区東三筋町一三	頼母木桂吉
	郡	前	X			京橋区南佐柄木町五	守屋此助
京都府	京都市	前	専			南品川利田新田	高木正年
			X		弁	烏丸二条南	森田茂
			X			河原町五	加藤小太郎
	郡	前	X		会社員	紀伊郡堀之内村	片岡直温
			X				山口俊一

大坂府	大坂市	前	専	三政		南区天王寺勝山通	紫安新九郎
						西区京町堀通四ノ二一三	金沢仁作
			専	二五行		東区上本町五ノ一七四	金澤種次郎
		前	専	四推	新聞記者	播乃須磨字西須磨五六六	石橋為之助
神奈川県	横浜市		専			西平沼町七五	平沼亮三
		前	✕			鶴町区中大番町	嶋田三郎
	郡	前	✕			横須賀深田七七	小泉又次郎
		前	✕		銀行員	茅ヶ崎萩園一四三三	山宮藤吉
			✕			横浜市海岸通五丁目	石井嘉作
			✕			高坐郡六合村	川井考策
兵庫県	神戸市		専		商業会議所副会頭	栄町	田村新吉
	郡	前	✕	三七行	年	芝区巴町六四	齊藤隆夫
		前	✕			赤坂区一ツ木	肥塚龍
		元	専	一一	肥料商	播州別府港	多木粂次郎
長崎県	長崎市		✕			長崎市東浜町四六	岡部政太郎
	郡	前	✕	三政		小石川区日向台町二二五	田川大吉郎
新潟県	新潟市		専			上大川前通[illegible]番町	齊藤宇一郎
	郡		✕	三四推	越後鉄道重役	新潟市西大畑通[illegible]	久須美東馬
			✕		日本石油重役	刈羽郡高田村字新道	飯塚弥一郎
			✕			直江津町	川合直次
			✕			新潟市西畑町	坂口仁一郎
埼玉縣			✕			北葛飾郡豊成村	高木利平
群馬県	前橋市		専		統理大臣秘書官	早稲田	大隈信常
	郡		専		法学博士	本郷区駒込曙町一三	小林丑三郎

千葉県
茨城県
栃木県

前 元 前 元

専 専 専

一八 政
三 法
三七 推

会社員
内務大臣秘書官
年
新聞社長

前橋市紺屋町
碓氷郡原市町[illegible]四九
麹町区内幸町官舎
武部鴨沢村字白幡
銀座三丁目九
麹町区三番町
東葛飾郡布施町
府下中野町西町
千駄ヶ谷
鎌倉
宇都宮下野新聞社内
上都賀郡西粟野町
字口西粟野

本間三郎
須藤嘉吉
関和知
中村尚武
鈴木久次郎
小林勝民
榎本次郎右衛門
河野正義
大津淳一郎
初見八郎
戸叶薫雄
横尾輝吉

三重縣 津市 四日市 郡
愛知県 名古屋市

前 前 前 前 前 前

専 専 専

三一 英
一七 政
三八 法
[illegible]二 推

新聞社長
新聞社員
司法大臣
新聞社会

津市内伊勢新聞社内
四日市
三重郡鵜河原町
四日市下新町
大阪市北区中之島一丁目
麹町区司法大臣官舎
一志郡久居村
品川御殿山七一八
名古屋市富士塚町
愛知郡鈴町高岡[illegible]
三河国岡崎町
神奈川県鎌倉大森

松本恒之助
九鬼紋七
重盛信近
辻寛
加賀卯三吉
尾崎行雄
小林嘉平治
川崎克
小山松寿
森田小太郎
大岩勇夫
田中善立

府県	郡市	前元	専	備考	職業	住所	氏名
静岡県	静岡市	前	╳			静岡市安西三丁目	尾崎元次郎
	郡		専		鉱業	日本橋区坂本町三四	村上太三郎
			専			田方郡中郷村	大村和吉郎
		前	╳			磐田郡久努村字村松	杉山東太郎
			╳			安倍郡麻機村	岩崎彦雄
			╳			小笠郡土方村	加藤忠吉
山梨県	甲府市		専			甲府市	大木喬命
	郡	元	╳		新聞記者	京橋区山下町一	望月小太郎
		前	╳		会社員	青山南町	根津嘉一郎
		前	╳			中巨摩郡五明村	市川文蔵
滋賀県	大津市		╳	二政	新聞社長	大津市[illegible]	西川太次郎
			専				西田庄助
岐阜県	岐阜市	元	専			大阪市東区備後町四丁目	河崎助太郎
長野県		元	╳	六政	新聞社長	松本市信濃日報社	降旗元太郎
		前	╳		会社員	荏原郡大井村字鹿島谷	岡部次郎
			╳		雑誌記者	小石川区白山御殿町一〇	樋口秀雄
宮城県			専			摂津御影町石屋川方	小山東助
		元	╳			牛込区袋町	首藤陸三
			専		弁護士		亘理胤正
福島県			╳	元政	会社員	本郷区元町一ノ大	鈴木寅彦
			╳	[illegible]	会社員	四谷区右京町廿	長澤倉吉
青森県	弘前市	前	╳	三両推		荏原郡南品川三六木	菊池武徳
山形県	山形市		専		年	麹町区有楽町一ノ三	大場茂馬
	郡		専			西田川郡鶴岡町	中野悌治

秋田縣	福井縣	石川縣
秋田市 郡	福井市 郡	金沢市 郡
前	前	
〇	〇	〇
元政		二八行 四政
会社員	退役 歩兵大尉	鉱業 年 雑誌記者
秋多社長 銀行顧問	退職 海軍大佐	
本郷区駒込西片町一〇	小石川区小日向水道九四	金沢市
半形新町上町	福井市福井新町丙	金沢市廣坂通二〇
牛込区南榎町三七		牛込区砂土原町三ノ八
仙北郡神宮寺町		松庄町
雄勝郡湯沢町		
由利郡平沢町		
所村欽次郎	井上廣居	町田忠治
伊藤恭之助	添田飛雄太郎	齊藤宇一郎
八田裕次郎	今村七平	横山章
関戸寅松	桜井兵五郎	田中喜太郎

富山縣	島根縣	廣嶋縣	鳥取縣	徳島縣	香川縣	愛媛縣
		廣島市 郡				松山市
		前	前	元	前	前
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三〇政	二〇政	二一政	三一英政			
秋多社長	秋多記者	秋多記者				秋多記者 年
福野町	山田正年	保科陽治	早速整爾	金尾稜嚴	有田温三	宮原幸三郎
簸川郡出西村	牛込区砂土原町二四	安佐郡安村字相田	広島市大手町四目	呉市	備後、登三郡三次町	横山金太郎
牛込区納戸町三七	麻生郡西屋村字敷地	仲多度郡七箇村	大川郡長尾村	神田区錦町三ノ三	小山谷藏	須見千次郎
増田壤三	小西和	高野金重				

郡	福岡県	佐賀県	北海道
	門司市 久留米市	佐賀市	小樽郡
前	前	前	元
專	專	專	專
会社員	旅館主	年	漁業
大坂市西区新町南通三ノ一九大	門司市	進信大臣	今西林三郎
大坂市東区北浜三ノ一二	久留米市庄嶋町二品	銀行重役	武内作平
松山市唐人町	唐津町	小城郡多久村	清水隆徳
大阪市東区今橋四ノ一三	進信大臣官舎	藤津郡鹿島町	才賀藤吉
		麻布区狸穴町六三	石田平吉
		哥葉郡哥葉	浅野陽吉
			豊増龍次郎
			武富時敏
			西英太郎
			井原喜代太郎
			金子元三郎
			佐藤栄右エ門

鳥取県	高知県	沖縄県
前	前	前
專	專	專
札幌区	五十嵐佐市	
豫町区元園町一ノ二七	本田親清	
豫町区富士見町五ノ九	冨田幸次郎	
那西朝通堂町三	濩得久朝惟	

後援会推薦以外之早稲田校友当選者

府県	前(元)代議士	所属政派	早稲田大学	職業	宿所	氏名
静岡県	前	国民	四三推		浜松市元城一二七	高柳覚太郎
岐阜県		政友	二一政	岐阜日々社長	岐阜市上竹町	匠田鋭吉
山形県	前	政友	三六政	鉱業	楯岡町	細梅三郎
	前	国民	二九法	雑誌記者	牛正区北町八	伊東知也
岡山県	前	国民	二三政		上房郡高梁町	西村冊次郎
熊本県	前	政友	三二行	銀行重役	赤坂区青山北町七二	江藤哲蔵
富山県	前	同志	四推		下新川郡大布施村	森丘覚平
千葉県	前	国民	二六政		半中町	柏原文太郎
					小石川区高田老松町	

全國大隈伯後援會所在地一覧表

東京府	東京市京橋区南佐柄木町五	
	西多摩郡平井村	
	横浜市本町横浜商業会議所内	
神奈川縣	横須賀市深田七七小泉方	
	足柄下郡小田原町	
	鎌倉郡鎌倉町小町七〇黒沢方	
千葉縣	千葉町一二〇〇吉田方	
	北足郡小谷村長島方	
埼玉縣	川越町	
	羽生町	
茨城縣	水戸市三ノ丸柴方	
栃木縣	宇都宮市池上町手塚方	
	足利町	
群馬縣	前橋市曲輪町五号宅金庭方	
福島縣	福島市中町五五	
秋田縣	秋田市大町二丁目風間方	
	山形市七日町	
山形縣	米沢市立町丸万旅館内	
	鶴岡町伊勢屋旅館内	
	酒田町停車場前矢口旅館内	

宮城縣
巖手縣
青森縣

北海

仙台市大町三丁目佐藤方
盛岡市不来方町一五並木方
弘前市相良町 高谷方
青森市 塩谷本店内
札幌区北三条西四 旭館内
小樽区花園町公園通 遊園館内
旭川区六条通大町目左今号 坂東方
後志国瀬棚郡瀬棚村
後志国黒松内
後志国倶知安
天塩国ナヨロ
天塩国上川郡十別六通 石橋方

道

釧路国釧路町 太洋亭内
膽振国室蘭町 大字海岸町 青山旅館内
根室国根室町
日高国三石
釧路国厚岸

静岡縣

静岡市七間町二丁目
田方郡三島町
田方郡狩野町
田方郡大見町
小笠郡横須賀町
富士郡吉原町八八
志太郡藤枝町若王寺四一

東京 榛原製

山梨縣
愛知縣

長野縣

賀茂郡下田町 土橋方
甲府市山梨民報社内
名古屋市富士塚町 小山方
小縣郡上田町仲町
松本市土居尻町八七七
北佐久郡岩村田町四四六 神津方
諏訪郡川岸村
諏訪郡永明村
諏訪郡岡谷湊
上伊那郡高遠町
下伊那郡飯田町主税町 高坂旅館内
中央東線辰之駅

滋賀縣
岐阜縣
三重縣
福井縣
石川縣
富山縣
新浮縣
大阪府

大津市湊町四五
岐阜市八幡町 片尾方
津市丸ノ内本町一〇四
武生町櫻 三田村方
金沢市博労町五三
石川郡松任町博労町
富山市東堤町二五
東岩瀬町 犬島方
長岡市渡里町 石塚方
新浮市西堀通五番町 栄江館
中蒲原郡亀田町
大坂市東区北浜町二丁目浪花橋南詰西入千歳旅館内

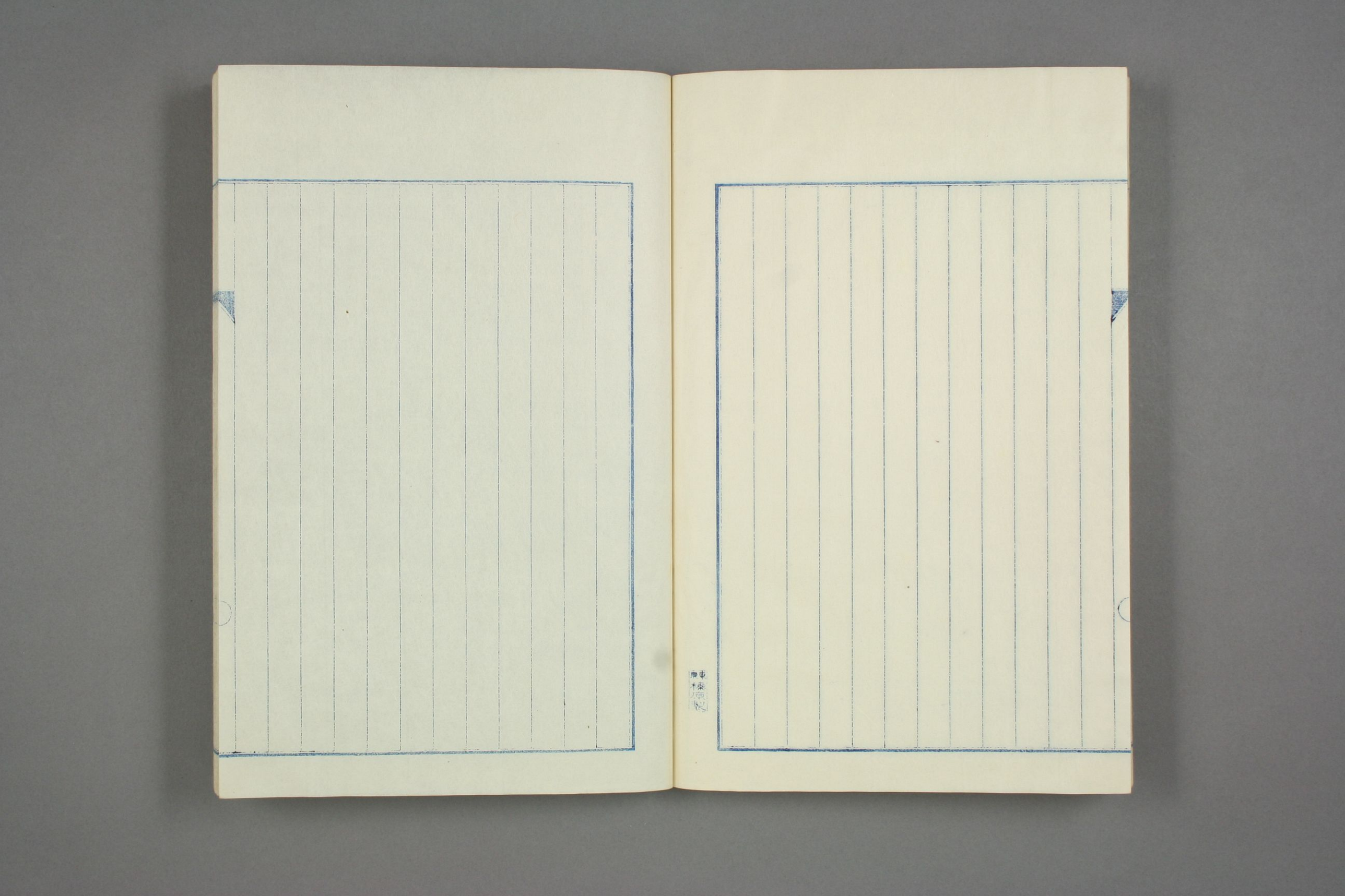
京都府	京都市西洞院三哲上ル 前田方
奈良縣	天田郡福知山町字呉服
兵庫縣	奈良市本小安町十一
	神戸市中山手通六ノ六〇
	姫路市直養町一
	宍粟郡安志村
和歌山縣	和歌山市湊雑屋町 南方方
岡山縣	岡山市西中西下 北村方
	美作国苫田郡津山町
廣島縣	廣島市下流川町 常林寺側 岡咲方
	備後国福山町西町新馬場 高田方
山口縣	下関市関後地町 久富方
鳥取縣	鳥取市上奥町四一柴田方
	倉吉町
島根縣	宍雲国神門郡 鵜鷺村 星野方
徳島縣	徳島市寺島町 須見方
高知縣	高知市帯屋町 岡嵜方
香川縣	高松市天神前町 吉田方
愛媛縣	松山市愛媛新報社内
福岡	福岡市京路町二七 日清生命 九州支店内
	門司市湊町九州亭内
	久留米市片原町 三国屋内
	筑前国八幡町西本町 一丁目 朝日屋内
	大牟田町

縣	若松市
	行橋町
大分縣	大分市古国分町 小野方
宮崎縣	宮崎市橘町通三丁目 濱田方
熊本縣	熊本市寺橋通り 泉鈹内
佐賀縣	佐賀市蓮池町 肥日報社内
	唐津町 豊増方
	武雄町 二佐方
長崎縣	長崎市江戸町十三
	佐世保市本島町五八
	平戸町
	北松浦郡相ノ浦
鹿児島縣	対馬国厳原町大字宮谷二二
沖縄縣	鹿児島市外加治木町四三 日野方
	那覇沖縄民

米國

桑港ハイン街 五五一

灣東
南加、西維府
中加、布市
櫻府 平野
スタクトン市
サンーゼ市
リバサイド
アナハイム
コントラコスタ
サンマテオ
テキサス州



○今次の選挙ハ其堂の同士打多くしたるあるず其堂に都合よき地盤なるを田宝数以外二人も三人も立ち為めに打角形勢のよきこゝろをあしくしなるこの一ましも足らず漁来幸ひに大勢田政府堂を利し敵ハ屏息して漁来の利其の興奮際を窺ふの勇氣なく同士相打ちつゝ終に大捷を博しなるに意外の幸と謂ハさるのみ然れども此の同士打の為めに損じたる労力と費用とを考ふれハ不経済も亦甚しく実に愚の至也余は大隈伯に此事を言ひ戯れて曰く譬へば市家の道楽息子の如しいくら浪費しても遣ひ切れず蕩盡の額ハ尚不此の大多数を出すを得ざる若し候補を立ちに節制あらば政府堂は軍事の多くの味方を出し寧ろ其の多くきに苦まん哉と伯莞爾れ然りと答ふ

○今次の選挙に貴族を感じたるに東京市に打ち出し候補を立て得さらしことなり國民堂にて三名まで高選せし見なる旧政府堂に高選の候補無りしに吹す若し四五名力の候補を立て伯二三要所に大演説を試みば恐らく文部堂にして一人も出さしめさるに好結果を得ならんに首府各市に於し面目を缺きたり

○検挙の風波は大隈伯後援会なるに及ぶ
まじと思ひの外事務所の侍を守屋北助う
同し庇しの下に選者事務所を掛ひたる
うち守屋に報する検挙の光沫に御う
光う事務家なるも及び余の垂涎出張の
当ま申し二三の書類を押収されたり、あとに
其書類は何うと申すけば遊説をし洋館を
以つて書し居る御室者や余等友人四五染
地宮貴様に晩飯をせるし居る御室者は才
すと司法部は之れを選者あり犯の状況に擬せ
んとしたるも飽くまで必ず戯に(擬事)事なれば
と司法と論争して事無きを得たり

○政友会に於ては今日知名の士多く落選
し此就中平素世人の風評冥しうらさる
面々例へば大石正育造のめき奥前紙長のめき
伊藤大八のことき敵味方よりもまさうる
と総称せられたるに所なる枕を並べて打
死し此大勢の動く所実に恐るべきことのひ
ける和歌山の国際邦輔のめき辛ふじて高
選を得此領袖もあるに無いこれに反して
政府を擁護せし候補者は落選を総
称されしこれ皆を事まりもまた入選し
此言論戦うめ何れ大勢を制しなるやをえる
べし

○伯の推薦状ハ選舉民ニ難し私常の効力
ゞあつて内客大臣連署の推薦状を同志人
にも書ちるんだゞ、それに較べると伯一人の
推薦状ハ勢力ゞ誰れとも之れを戦
敵を以つて受け比、此の推薦状の一手販賣
を後援なむ之れを此ことゝ比較せら
れ比此の推薦状を有書の紙に鄭寧に認
め故尚ほ伯の印まで接し[illegible]あ
る時ハ或千通も石版に附して早稲田高
らも特に書信し比も[illegible]の清印刷人を代
も之れハ為めに比較せられ比
○伯の名義の依頼電信ゞ文後の勝を得

人と来し比候補者ハ或人もあつて而して同
士間に於て同市に同じ策を取つ比のを神戸
の国崎と田村ゞあるの国崎を指着を受け
怪我をしたるの実後の電報を利用する
ことを許さなんたるのを勝手に打つ比ある
ゝ田村を申方し許可を受け比のをあ
るゞ競争者等国崎の側の電伯名義
の電信を打消すなるを伯の名義をいて
国崎ハ電信を打たぬ何れ伯電なる
田村に投票を乱もと云ふ何れかと云ふ
と田村側に伯電を作つ比同し大隈伯ハ
同志の候補者人に難し依頼の電報を

○兼ての大謀に中将上京して板垣伯に事を謀り
て来援を請ふ伯漸く意動き諾せんとす
夫人諫めて曰く何ごとも人にきかんで自分の決
論を下し給ふべきに都の気のつよき人の言を信じ
て人にきかるゝまゝに動きてのおそれを流れ
に伯も会得して終に中将の請を拒絶すと
大隈伯語らる
○兼ての如く大浦の意を承けて文初旅
着干渉をすゝめしも之を立せ如くなる説
奏に発しも同志者の勧誘を拒みける
忽ち馬脚をあらはし司法部の聞ふ處ともを
等二三の数で罪捕りる由将派の逸者
干渉を為すことゝなりては是非大隈伯の
諒るを得くて大浦も此法にかゝる處にはならず
と辞意を洩らし於て実に至りて罪の口供
に如きの命令を受けにあると大浦も自利
として其任を免んぜらる能はずと辞意を決
し於て係りし如きを識るべく文書にて迫らんと伯
は大浦の辞職を許されたし
○大隈の選挙干渉問題と司法の衝突を
甚しくあらはんとす司法と内務に於て事
関係らしこしまずかゝり司法と選挙者の公正
を特に内容とも合せられたるには左ることなく
非常識の司法あらず一面歌て左の穴をかじ

くらゐ四位の優勝者云んハ一等賞を得て前
後優勝の四級を五段に上らんと云ふ前四級
遊者ハ約に比べ五倍以上なるとの推定
数推すべし
○六四の総遊者と同数なる各候補に平均三千円
の総遊者費を與へるとふふこれも大略打算
すれハ約五十萬円の金を投じたるなるん此
内二十五萬円を井上候補も出でたるの外
外相より内許出金したるなるん
○饗棱今の候補を十中八九地盤をなせさ
るその世総遊者費をやる事今少し
会の文出しなるの総金額をつまびし精算

う出来ぬが七萬円位のこまひあつく莫劇
令なる結果のようにして云のをよろしいので
ある
○総遊者ニ要する大勝を得ん能く気乗ふ
のる大器の術も乗して驕得意するると
云ふ事もある遊境するやうてこそ元気あるも
伊勢を寄せ紅のひあるしの得意するると
ふる元気ある遊の獲媚が来る、仰ぐ也
う大切である誰ニ就をもうあくが大人
ニ注意しておることニ肝要である所の
ら形振く立つ前の前の考をとせニ大人
ニ内緒しれ大人七其意を諒とし

○長崎に滞在中骨董舗二三軒を訪ふ松尾の乾
山あるとも廉なることを驚きぬ終に四五点
購ひて帰りぬ翌る一日寒雅方を訪ふ西村
宮崎　と云ふものも家々
あり紫檀を以て陳列せしてなさるあり室
く錦したる格子を以て剌をして奥ゆかしく
通さる蒙庫はおもに紳士格の家にて織瓶甚
旦仿古作陶の数十数点を見る其作年織瓶
流れと味ふべし名工七代を思ひぬれば技下って拙
児るは流くさるを例とすなることなき十一代目と云
ふ人の技術も前代に比して劣りたりとも覚え
ず贊時也仿古織瓶遂易形且を経ふ

○長崎に逗留先集をして四日間滞在中一
日間を得隅々まで分けして格子戸康國を拉し
て市中に古書を漁る此地図と舊古書と写本
今の数伏武人と之人を滋李くの舗なし僅かに
此観文堂と云ふ書肆一戸を古書陳列所に
充満千の図書を並べ備へ一読する幾人と
殊書と見るべきものあらず叱を失ひ去
らんとするに偶然にて一巻の書を出し示す
開くに木下順庵の手稿なり出づと居たり
てみれば詩草と覚しく紙撲雑加筆
山庵に直夫の印あり別に順庵に関
する某々の詩数二三首を添ふ余順庵

の楷行を見す遂に真贋を判し難し唯此
出所疑ふの餘地なきを以て如卒爾を之る
後に検すれば果して順庵の真蹟也順庵の家
にも歿後家に一物を留めずと云ふ同日松平
と鍔甚に飽む此家の別荘古今亭を先年
伯と同宿の家也鍔甚北市の志鋪室内の
装飾美麗床に祐仁の浮世絵を掲げ襖に
宗達風の絵畫にて料理調和清よし宛然
元禄時代の人なる心地し於みて政熟を忘る松
平趙説中の一詩を示す左のみし

趙説投身少壮
雅和遅寒若未
偷閒峭風吹散
舌端丈氷雪
炎々三越山

○蕎亭機法院ハ伝
吹込まれるの余
手傳つて
此一日内
云うハイカうなこ
ソライ日をしと
左のやき
載つた

首相對法相の
「音響競爭」
思にも付ぬ

▲紹介の挨拶

▲人類と禽獸

▲値打が燦然と

閲覧室

大隈伯
憲政に於ける輿論の勢力
株式會社 日本蓄音器商會

閲覧室

憲政に於ける輿論の勢力

（音譜番號五一〇）

大隈伯爵

諸君、唯今より大隈伯の御演說があります。其御演題は「憲政に於ける輿論の勢力」と云ふのであります。（拍手）

帝國議會は解散されました。今將に旬日の後に選擧が行はれて、今全國は選擧の競爭が盛んに起つてをる時でありますんであります。此時に方つて、憲政に於ける輿論の勢力を論ずるのは、最も必要なりと信じますんであります。憲政其ものは、頗る複雜なる政治にして、人文の發達によつて起つた事は、諸君の御承知の事であります。人文の發達に伴へば、自ら輿論が此所へ成立つのであります。此輿論其ものが盛んにならなければ、憲政其ものが、充分に運用されぬと信じますのであります。已に此選擧に於て、帝國議會開けて以來二十有五年、選擧を繰り返す事十回以上に經驗を積んだに拘らず、未だ選擧の狀態が、遺憾ながら不完全なりと云ふ事を思ひまして、甚だ憂慮に堪へぬ次第であります。斯の如き國家の重大なる選擧に於て、盛んに輿論の起る事を望むに拘らず、未だ公平なる輿論が、凡て選擧を動かす如き勢力が未だ顯はれぬのを遺憾と致すんであります。

凡そ物の善惡、邪正、順逆は、實質的に道德的に發達するものである。國民が善政を望まんとすればだ、是れに對する自ら輿論が起らなくてはならぬと思ひまするんである。

國家の目的は、常に國運の隆盛、多數國民の福利を捗らす事に勉めて居るのである。國家の意志は、國民の意志である。國民の意志の集合したものが、國家の意志である。國民の是なりと認むる事が、國是である。之れが多數政治の原則である。然れば國民の國家に對し、憲法に對する責任の大なる事は、恰も貴重なる　陛下の賜はつた所の鍵を、大切に之を保つと云ふ事が必要である。是に於て投票の、一票も自由の精神が之に宿らなくてはならぬのである。個人の獨立個人の自由と云ふものが集合して、遂に自治となる。帝國憲法は、國家の自治である。國民が集合して而して國民的勢力が、議會に集注さるゝのである。國家的勢力は、何によりて導かるゝかと云ふと、卽ち輿論である。此輿論の勢力が、議會に集中されて、始めて帝國議會の威嚴、帝國議會の信用が茲に成立つのである。斯の如き憲政は、輿論によつて導かるゝものである。而して輿論其ものは、知識ある階級によつて支配せらるゝのである。然るに往々世の俗人は過つてだ、政治は俗なるものである、自己は學者である、自己は實業家である、一は宗教家である、一は何等職業を持ち居るのであると云ふ如く、國民の中等階級、知識ある階級が政治から退けば、到頭劣惡なる一種の政治的商賣が起るのである。從來の黨派は、往々其弊に今陷りつゝあるを遺憾とするのである。此度の解散によつて此度の改選によつて。國民は稍々自覺を始めた事を喜ぶのである。

云ふのであります。（拍手）

帝國議會は解散されました。今將に旬日の後に選擧が行はれて、今全國は選擧の競爭が盛んに起つてをる時でありますんであります。

此時に方つて、憲政に於ける輿論の勢力を論するのは、最も必要なりと信じますんであります。憲政其ものは、頗る複雜なる政治にして、人文の發達によつて起つた事は、諸君の御承知の事であります。人文の發達に伴へば、自ら輿論が此所へ成立つのであります。此輿論其ものが盛んにならなければ、憲政其ものが、充分に運用されぬと信じますのであります。

已に此選擧に於て、帝國議會開けて以來二十有五年、選擧を繰り返す事十回以上に經驗を積んだに拘らず、未だ選擧の狀態が、遺憾ながら不完全なりと云ふ事を思ひまして、甚だ憂慮に堪へぬ次第であります。斯の如き國家の重大なる選擧に於て、盛んに輿論の起る事を望むに拘らず、未だ公平なる輿論が、凡て選擧を動かす如き勢力が未だ顯はれぬのを遺憾と致すんであります。

凡そ物の善惡、邪正、順逆は、實質的に道德的に發達するものである。國民が善政を望まんとすればだ、是れに對する自ら輿論が起らなくてはならぬと思ひまするんである。

（音譜番號五一一）

輿論の勢力を、歷史的に聊か玆に述ぶる必要を感じますのであります。獨裁政治の時代に於ても、輿論の勢力は大なるものである。王政維新は何に依つて起つたか、四百年の武斷政治を廢する全く輿論の勢力である。四百年の封建政治を廢して郡縣制を起し、四民平等の狀態に變化したのは、是亦大なる輿論の勢力である。而して法律の編纂、地方の自治、遂に憲法が發布さるゝに至つたのも、是亦輿論の勢力に過ぎぬ譯でありますのであります。斯の如き輿論の勢力は大なるものであつてだ、殊に憲政の下に全くこの憲政の運用發達は、輿論に支配さるゝものであると云ふ事は、信じて疑はぬである、輿論は凡て知識ある階級によつて導かるゝものである。

玆に於て政事家は、國民の指導者となつて國民を導く、輿論を導く、或る場合には、輿論を制すると云ふ力がなくてはならぬのである。然るに憲政の下に、政黨の人は輿論を指導するべきの働きが起つたか、近來未だ斯くの如き政治家を見ないのである。

然るに此度の解散によつて、初めて憲法實施以來、解散の理由を明かにして、反對黨の論する所と政府の論ずる所を對照して、聰明なる國民の前に訴へたと云ふ事は此度が始めてである。

是に於て、翕然として輿論は今起りつゝあると信じますのであります。

に、甚だ悅ぶべき事であると思ひます。

憲法によつて與へられた所の、國民の權利と義務は重大なるものである。憲法其者は、國家を組立つる所の根本組織である。其根本組織によつて、國民に與へられたる信認權、言ひ換へれば國民の義務は頗る重大なるものである。而して其最も大切なるものは、選擧である。全體國民が、今、稅が高い、或ひは政府は非常の惡政を行ふ、云ふ怨嗟の聲を放つのは、卑屈なる專制時代の國民の聲であります。憲法の下には、稅を取るのも、或ひは金を使ふのも、國民の權利義務を規定する所の凡ての法律も、帝國議會の協贊なくして行はるゝものではないんである。然らば稅も國民が承知したものである。法律も協贊を與へたものである。而して行政其者は、帝國議會は充分に監督權を持つてをるのである。若し法律其ものが不完全であればだ、帝國議會は發議の權を以て、法律を改正することも、或は廢することも、或は新たに法律を拵へることも、隨意に出來るのである。此くの如き大なる權利を國民に授けられたものであるのである。

然らば之れを平易に說き明せば、　陛下は、明治大帝は、國民に大切なる鍵を御渡しになつたと云うて宜しいのである。而して重要なる國家を左右する、法律を左右する鍵をだ、卑劣なる、野卑なる、陰險なる輩に渡してだ、而して禍を受けて、而して禍に苦しんで、種々の不平を唱へるとは何事ぞ。恰も之れは自ら過てる其報いであるんである。畢竟、是れ卑屈なる精神である。何故に、此權利を重んせざるぞ。

閲覧室

社會學上より觀察致しますると、社會の强制力の最も大なるものは法制禁令。法制禁令は社會の表面に現れたる、行爲を支配するものである。其の精神界に働く所の强制力は、宗教に於て、或は學者の議論に於て、殊に著しく强制力の盛んなるものは、新聞に於て現はるゝのである。斯くの如き强制力がだ、政治上にも、社會上にも、風俗の上にも、大なる力を持つと信じますんである。精神が麻痺するとだ、惡を惡とせず、遂に廉恥の風が段々衰へると云ふ事を慨るゝのである。是に於て、官吏も過が多いんである。社會も亦過つんである。之れは社會の制强力が、薄弱なる證據である。吾輩の內閣組織以來、昨年の五月に發表した所の政綱の一つに、先づ人を治めんとする者は、自ら始めなくてはならぬ。是に於て、官吏の嚴肅なる規律を論じたのである。是に於て、廉恥の風と云ふ文字を表はしたのである。此廉恥が社會を强制するに、非常に大なる威嚴を持つたのである。此威嚴がなくなれば、此道德の制裁がなくなるのである。法律はだ、三百代言的に行けばだ、どうかすると法律は免るゝ事も出來るか知れん。然し乍ら、社會の制裁は之を許さぬのである。社會の制裁が之を許せば、民免れて恥なしと云ふ有樣に陷るんである。社會が墮落すれば、政治も凡て國家の進運は、玆で止まるんである。甚だ恐るべき危機に臨んで居るんである。然るに此忠良なる、啓發なる、國民は未だ議會の大權に遭遇して、國民の愛國心が勃興して、そして靜かに顧みて、現在の政治の狀態を滿足しないと云ふ狀態は起つたのであります。其時に、此選擧が現れたのであります。

今、世界の强大なる獨逸と、英國、佛蘭西、露亞西と聯合して、今方さに戰ひつゝあるんである。帝國の地位は世界に大なる、今變化をなしつゝあるんである。帝國の地位は疑ひなく、世界の最も進んだ文明國と共同の地位に達せんとしつゝあるのである。此くの知き時に於て、些々たる國內の外交、財政、或は國防、其他の政治上に於て、黨派的觀察を以て爭ふとは何事ぞ。此くの如き者に向つては、輿論の大なる勢力は、之れを破ると云ふ必要に逼つてをるんである。又凡て今日までの黨派の弊はだ、如何に强辯せんとしても、覆ふべからざる弊は、到る處に存在してをるのである。是れが此選擧に臨んで、國民の覺醒を促す所以である。玆に於て輿論の大なる勢力は、玆へ現はるゝことを望むんである。國民が自覺して、自己の貴重なる國家に對する義務を、充分に自覺すれば、此選擧の效は、實に大なりと信じますんである。此くの如き、日本は過渡期に立つてをるのである。日本帝國の地位は、此一步を誤まれば、國の運命、國の安危榮辱の係はる、大切なる時機であると云ふ事は、國民も大に自覺しなくしてはならぬと信ずるのである。是に於てだ。いよ〳〵此輿論の勢力の大なる事を、私は認むるのであります。此輿論の勢力がだ、帝國將來の運命を支配すると信じますんである。

閲覧室

祇園の同志者の村田平左エ門とその人うち

（音譜番號五一四）

□ 社會學上より觀察致シ[illegible]、社會の[illegible]